



Scenic Byway Hokkaido

Hakodate

Onuma

Funkawan

シーニックバイウェイ北海道

函館・大沼・噴火湾ルート

平成18年度 函館大沼噴火湾ルート ルート運営活動計画



平成18年9月

提供：函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議資料より



シーニックバイウェイ北海道 函館・大沼・噴火湾ルート

～ 9/10までニックネーム募集中！！～

～ 道南版ロゴマーク開発予定！！～

目次

はじめに	1
本ルートの概要	3
運営体制と4つの活動目標	10
メンバー紹介（活動団体概要）	12
目標-1 地域の誇れる景観を掘り起こし、 保全・改善、活用する	27
●本ルートの景観資源 ●景観に関する基本方針と活動方針	
目標-2 地域一人ひとりが地域資源の大切さを知り、 そしてそれを活かす活動を追求する	34
●本ルートの地域資源 ●観光に関する基本方針と活動方針	
目標-3 自然の尊さ、人のぬくもりを伝える	42
●本ルートの自然・アウトドア資源 ●自然・アウトドアレクリエーションに関する基本方針と活動方針	
目標-4 ITや地域メディア等を活用した効果的な情報を 共有し、発信する	47
●メディアの活用状況 ●情報発信に関する基本方針と活動方針	
今後の展開	52
●H18ルートスケジュール ●活動内容シート ●函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議規約 ●中長期スケジュール	



はじめに

国特別史跡である青森県の三内丸山遺跡に比較しても決して劣らない縄文文化の痕跡が残る地域、さらに中世にはすでにこの地に多くの和人が館を築き、海岸部には漁民の集落が散在していたという地域でもあります。

幕末には国際貿易を夢見た高田屋嘉兵衛が活躍し、日米和親条約締結後のペリー提督の来航、箱館の開港で日本でもいち早く洋風文化が導入され、その影響は函館山山麓に多くの洋風建造物として今に伝えられています。世界の三大夜景として山頂からの夜景は絶景です。日露戦争時に建設された函館要塞が一般に公開されたのは第二次大戦後のこと、要塞であったために残された北海道南部特有の自然のままの針・広混交林、その木を頼りに渡って来る鳥たち、この山に抱かれる函館は歴史・文化の豊かな観光地です。

北海道最南端のこの地域は、津軽海峡、太平洋、噴火湾の三つの顔を持つ海に面しています。噴火湾からは、室蘭・白鳥大橋・有珠山などの景観が海の向こうで眺めることもできます。幕末から今日まで最上級の昆布の産地として知られ、海峡の漁火はロマンを掻き立て、翌朝にはその産物が活イカとして食卓に載ります。

国道5号は明治に入って北海道で最初に整備された幹線道路、沿道には赤松並木が植えられ日本百景にも選ばれました。峠を越えるとそこには秀峰駒ヶ岳、大沼、小沼の素晴らしい景色、松尾芭蕉が渡道してこの景色をみたらどんな歌が生まれたのでしょうか。

このルートは「北海道にありて北海道にあらず、しかれども東北にもあらず」独自の歴史・文化、自然を有する魅力あふれる舞台を提供してくれます。この舞台の上で、今に生きる我々が、また新しい歴史を創っていくのです。

さて、貴方はここでどんな役割を演じますか。

シーニックビューポイント

- 1 函館山 展望台からの夜景は世界一！頂上からの景色は夕暮れから夜にかけてがおすすめ
- 2 立待岬 かつては異国船を監視する場所で、築港歴史が今も残る。下半島や津軽半島の山並み、大森山の海岸線、道ノ川漁場が一望できる。
- 3 榎木小公園 かつては榎木が好んで散歩した場所。道ノ川温泉や函館山や立待岬が一望できる。また、初夏から秋にかけてはイロドリ駒の篝火も楽しむことができる。
- 4 戸井汐音碑前庭 北海道・本州最長の汐音碑。誰が聴けば夢に満ちる音も聞こえる。
- 5 日浦岬 高層のコンクリートである日浦岬の展望台は、函館山の眺望が簡単に楽しめる。津軽海峡が一望できる。岬の上には日浦灯台は土木遺産にもなっている。
- 6 函館市恵山地区 道の駅「なとわ・えさん」1km手前の観音台。海岸線と恵山が一望できる。
- 7 函館山展望台 美しい海岸線と恵山展望台に覆われた山並みを一望できる。（展望台展望台も一望できる絶景ポイント。展望台の浮き輪を見ることが出来る。また、大森山展望台の眺望が望まれている。）
- 8 黒瀬岬 津軽海峡を一望できる絶景ポイント。函館市の浮き輪を見ることが出来る。また、大森山展望台の眺望が望まれている。
- 9 三味線岬 函館15分圏で、岩を突き抜ける函館の海岸が三味線の音色に聞こえることからこの名前がついた。秋の日は、草野山、有珠山が望める。
- 10 ハマナス 台場公園 津軽海峡、駒ヶ岳を一望できる場所。秋の日は、草野山、家業山の白鳥の島が望める。
- 11 森町 カーブを曲がるにつれて駒ヶ岳が顔を出してくる。正面に見えたときの駒ヶ岳は圧巻！
- 12 駒ヶ岳 パノラマパーク 大自然が満喫でき、駒ヶ岳が一望できる。
- 13 大沼湖群 この辺りは大沼湖公園に指定されており、新日本三景にも選ばれている。駒ヶ岳や大沼などの美しい自然と原生林や野鳥の宝庫でもある日本でも古い自然公園の一つ。
- 14 きじきき 高層キャンプ場 駒ヶ岳や大沼公園、函館山とパノラマの風景が一望できる。秋の日は、駒ヶ岳や草野山が望める。
- 15 城山 スカイライン 道庁敷地内として有名な、函館山・駒ヶ岳・大野が一望できる。
- 16 赤松街道 14kmの区間に並んだ赤松の景観は圧巻。日本の道百選にも選ばれている。

- 主な観光地
- ビューポイント
- 夜間もきれいなビューポイント

情報拠点

● 函館市駅前観光案内所	0138-23-5440	9:00-18:00
● 函館オートキャンプ場	0138-58-4880	9:00-17:00
● 函館市戸井支所	0138-82-2111	平日 8:45-17:15
● トーパスヴィレッジムーイ	0138-82-2000	8:00-20:00
● 道の駅「なとわ・えさん」	0138-85-4010	9:00-18:00
● 函館市恵山支所	0138-85-2331	平日 8:45-17:15
● 函館市役法庫支所	0138-86-2111	平日 8:45-17:15
● ふるさと文化公園	01372-2-3789	9:00-17:00
● 函館市南浜部支所	01372-2-5111	平日 8:45-17:15
● 南かやべ瀬橋漁船加工センター	01372-2-5574	9:00-18:00
● 大沼湖群理業文化財展示館	01372-2-3789	9:00-17:00
● 函館観光案内	01372-7-5655	8:30-18:00
● 函館市役所	01372-7-2111	平日 8:50-17:00
● ハマナス台場公園	01374-8-3111	8:00-17:00
● 道の駅「つどーろ・プラザ・せむら」	01374-8-2828	9:00-17:00
● 函館市役所支所	01374-8-3111	平日 9:00-17:00
● 道の駅「YOU-遊-もり」	01374-2-4886	8:00-18:00
● 函館市役所	01374-2-2181	平日 8:30-17:00
● ハーベスター・八景	0137-64-3113	平日 11:00-20:00 土・日・祭日 10:30-20:00
● 駒ヶ岳パノラマパーク	0120-415-992	10:00-17:00
● 大沼湖群交流プラザ	0138-67-2170	8:30-18:00
● 北海道産物館	0138-66-2000	9:00-17:00
● 七飯町役場	0138-65-2511	平日 8:30-17:00

観光に関するお問い合わせは、上記時間内にお願います

浪漫あふれる 歴史・文化、海・山に囲まれた癒しの景観、豊かな自然がくれる美味しい食

Scenic Byway Hokkaido Hakodate Onuma Funkawan

駒ヶ岳・大沼エリア

駒ヶ岳は眺める方向で姿・形を変え、小さな島が点在する大沼は四季折々に楽しめます。

歴史的農業エリア

米作発祥の地の水田が広がり、秋は洋式農業を受け継ぐりんご園、四季を通しての赤松並木に歴史を感じます。

漁り火エリア

夏から初冬にかけて、漁り火が輝くような華やかさを海の上に出げます。また、つつじの咲く頃の恵山は見物です。

函館市

初めての欧米諸国に門戸を開けた港町の一つ、函館山の麓には洋風文化の香りのする建物。港には時を越せる倉庫群。訪れる旅人にロマンへの想いを掻き立てます。

縄文ロマンエリア

歴史時代の人々の暮らしがのびのびと広がっているエリアのどこでも見られ、土器作りも体験できます。エリアの北、八景では、神秘的な青函海峡を眺めます。

函館市 いけすいか

津軽海峡で捕れるスルメイカは、空気にえさ食べて成長しており、身が厚く弾力（ゴロ）もあっておろしやが「蕎麦味しい」時期です。そのイカを生きたまま商品の水（氷）で入れて水揚げしますので、新鮮なイカの刺身が味わうことができます。

北斗市 トマト

恵まれた気象条件と肥沃な大地で育った栄養豊富なトマト。土づくりを基本に、よりクリーンな農業を目指して生産しています。

七飯町 じゃがいも

専業でとれたじゃがいもを、軽辛と甘い味の部分をポイルなどしないで生産したものです。寒天質のプリリンとした舌ざわりで、お吸物、お味噌汁、又は、三杯粉等であっさりとお召し上がりください。

鹿部町 たらこ

津軽海峡で漁獲された新鮮な「ずけとたらこ」から取り出されたたらこ。特に津軽海峡のたらこの粒が1粒1粒がまるやかで口さわりの良い味わいで味わえます。

森町 かぼちゃ

駒ヶ岳の火山白灰土壌と温暖な気候に恵まれて、味・品質ともに定評のある品種「みやこ」。栗のような厚くほくほくと糖度が高いかぼちゃです。

八雲町 牛乳

健康な牛の飼育による安全で品質の高い牛乳で、チーズやアイスクリームの加工品も作られています。

ご当地名産品

● 函館市 いけすいか
● 北斗市 トマト
● 七飯町 じゃがいも
● 鹿部町 たらこ
● 森町 かぼちゃ
● 八雲町 牛乳

情報拠点

● 函館市駅前観光案内所
● 函館オートキャンプ場
● 函館市戸井支所
● トーパスヴィレッジムーイ
● 道の駅「なとわ・えさん」
● 函館市恵山支所
● 函館市役法庫支所
● ふるさと文化公園
● 函館市南浜部支所
● 南かやべ瀬橋漁船加工センター
● 大沼湖群理業文化財展示館
● 函館観光案内
● 函館市役所
● ハマナス台場公園
● 道の駅「つどーろ・プラザ・せむら」
● 函館市役所支所
● 道の駅「YOU-遊-もり」
● 函館市役所
● ハーベスター・八景
● 駒ヶ岳パノラマパーク
● 大沼湖群交流プラザ
● 北海道産物館
● 七飯町役場

シーニックビューポイント

● 函館山
● 立待岬
● 榎木小公園
● 戸井汐音碑前庭
● 日浦岬
● 函館市恵山地区
● 函館山展望台
● 黒瀬岬
● 三味線岬
● ハマナス 台場公園
● 森町
● 駒ヶ岳 パノラマパーク
● 大沼湖群
● きじきき 高層キャンプ場
● 城山 スカイライン
● 赤松街道

ルート運営代表者会議作成のリーフレット

本ルート の 概要

ルートの名称

函館・大沼・噴火湾ルート サブテーマ：「人と人をつなぐ道」

FMいるかのいるか通信でニックネーム募集中！！

本ルートは、函館山と西部地区の歴史的街並み、津軽海峡の漁り火が美しい湯の川温泉郷、美しい自然に囲まれ、自然体験のプログラムを充実させている大沼周辺、北海道遺産にも指定されている内浦湾沿いの縄文遺跡群など、多彩な景観資源・地域資源を有する地域にあります。そして都市景観から農村景観、漁村景観までを幅広く網羅していることから、それぞれの個性を発揮し、絆を深めていくことが大切と考え、私たちはこれを「函館・大沼・噴火湾ルート」と命名しました。

ルートストーリー 未来への小径（こみち）をゆっくり歩んでいく

私達は、英知ある歴史と美しい風土に守られて生きていることを誇りに思います。私たちは、「道」を通じて互いに連携を深め、学びあいながら、これから続いていく未来への小径（こみち）をゆっくり歩んでいきたいとします。

ルートストーリー

～ルートで体験できること～

- 1 函館山をとりまく異国情緒あふれる街並み
- 2 開拓の足跡を記す赤松街道
- 3 駒ヶ岳・大沼と牧歌的風景
- 4 噴火湾沿岸の漁村景観と縄文遺跡群
- 5 漁り火の美しい津軽海峡



① 函館山をとりまく異国情緒あふれる街並み

観光客が大勢訪れ、ロマンチックとも非日常的とも呼ばれる函館西部地区の街並みですが、生まれてから今日につながるこんな街並みの歴史にちょっと目を向けてみませんか？ 理解が深まれば、街歩きももっと楽しくなります。



坂は丘と海とをまっすぐ結んでいます
(函館市・八幡坂)



夜この坂を見上げながら酒を飲むのがお洒落なんですよ
(函館市・大三坂)



海峡通は十字街を抜けて、
八幡坂から海へと向かいます

② 開拓の足跡を記す赤松街道

明治以来北海道の発展を支えてきた札幌新道（現国道5号赤松街道）には、赤松並木やガルトネルブナ林など、近代の歴史の足跡が随所に残されています。たまには赤松街道をゆっくり走ってみませんか？



七飯町はりんごの産地です



悪い虫は集めて燃やしてしまいます
(七飯町・こも巻き風景)



完成まもない札幌本道（国道5号）
日本で最初の西洋式馬車道です
(市立函館図書館所蔵)

③ 駒ヶ岳・大沼と牧歌的風景

大沼トンネルを抜けると、そこには四季折々に美しい姿を見せる名峰駒ヶ岳がそびえています。そして少しより道すれば、あたたかく牧歌的な風景に出会うことでしょう。



大沼・駒ヶ岳
(北斗市・きじひき高原より)



牧歌的な風景が漂ってきます
(八雲町・育成牧場にて)



馬に乗ってゆっくりしてみませんか？
(森町・駒ヶ岳)

④ 噴火湾沿岸の漁村景観と縄文遺跡群

噴火湾沿いには漁港が連なり、生命力豊かな海に育まれた、活力ある漁村景観をつくりだしています。縄文時代には大規模な定住集落が連なり、出土する遺物からは本州とも活発に交流していた様子が伺えます。



また新しい発見が・・・
(函館市・臼尻C遺跡の発掘風景)



縄文時代から転生してきた人かしら？
それともただの学芸員？
(函館市・大船遺跡体験学習)



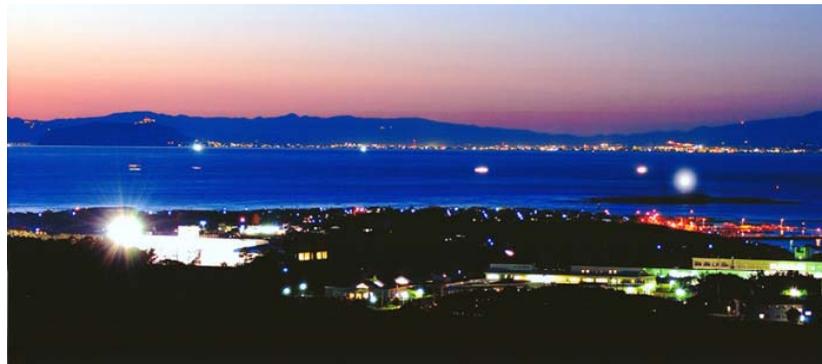
夏は昆布の薫りに満たされた道です
(函館市)

⑤ 漁り火の美しい津軽海峡

イカ漁の季節には、夜の津軽海峡に漁り火の灯がともります。対岸の大間から函館を見る横夜景はとても美しく、函館と大間の深い結びつきを感じさせます。



たまに漁り火を見ながらちょっと散歩したりしてみたいんです。
(函館市・啄木小公園)



縄文人は津軽海峡を「しょっぱい川」と呼んでいたと言います。
対岸の大間から見ると、函館はまるで本当に川向こうですね。
(大間から見た函館・横夜景)

函館・大沼・噴火湾ルート の概要

本ルートは、函館山と西部地区の歴史的街並みに代表される都市景観、大野平野などに代表される農村景観、国道278号沿いのコンブ漁に代表される漁村景観から、北海道遺産にも指定されている内浦湾沿いの縄文遺跡群などの多彩な景観資源・地域資源までを幅広く網羅しています。

基点となる函館市には年間約500万人の観光客が訪れています。中心市街地に近接して、空の玄関口となる函館空港や、青森・大間とのフェリー航路のみならず、国際クルーズ船の寄港地としても実績のある函館港、札幌・北東北との鉄道の要となるJR函館駅などがあります。これらの充実したゲートウェイ機能を有機的に結びつけ、高い宿泊率を生かして、連泊したくなるようなメニューを増やしていき、周遊性を高めていくことで、圏域全体の観光活性化につなげていきます。

また、本地域においては、景観・自然・歴史（縄文遺跡等を含む）・文化・レクリエーションにおける住民主体の地域活動や交流が盛んに行われています。こうした活動を融合させて新たな芽を育てていくことで、シーニックバイウェイ北海道の制度における「ツーリング環境の形成」という理念に沿って、この地域の魅力を広く網羅し、周遊性の高いシーニックルートの創出に繋げていきます。



運営体制と4つの活動目標

運営体制

函館・大沼・噴火湾ルートでは、下図に示すように推進の母体としてルート内の地域活動団体によって構成される「函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議」（以下、ルート運営代表者会議）を設置し、行政機関によって構成される「ルート運営行政連絡会議」と連携を図りながら活動を進めていきます。

また本ルートでは4つの分科会を設置し、それぞれの活動目標に向けて、具体的な活動計画を立案・検討します。各活動団体は、1つないし複数の分科会に参加し、自分達の活動を踏まえた展開方策を考え、活動を推進していきます。

事務局、幹事会は、それぞれの分科会の取り組みを結びつけ、魅力あるストーリーになるように、全体をマネジメントしていきます。

■ ルート運営代表者会議、幹事会、事務局、分科会の位置づけ

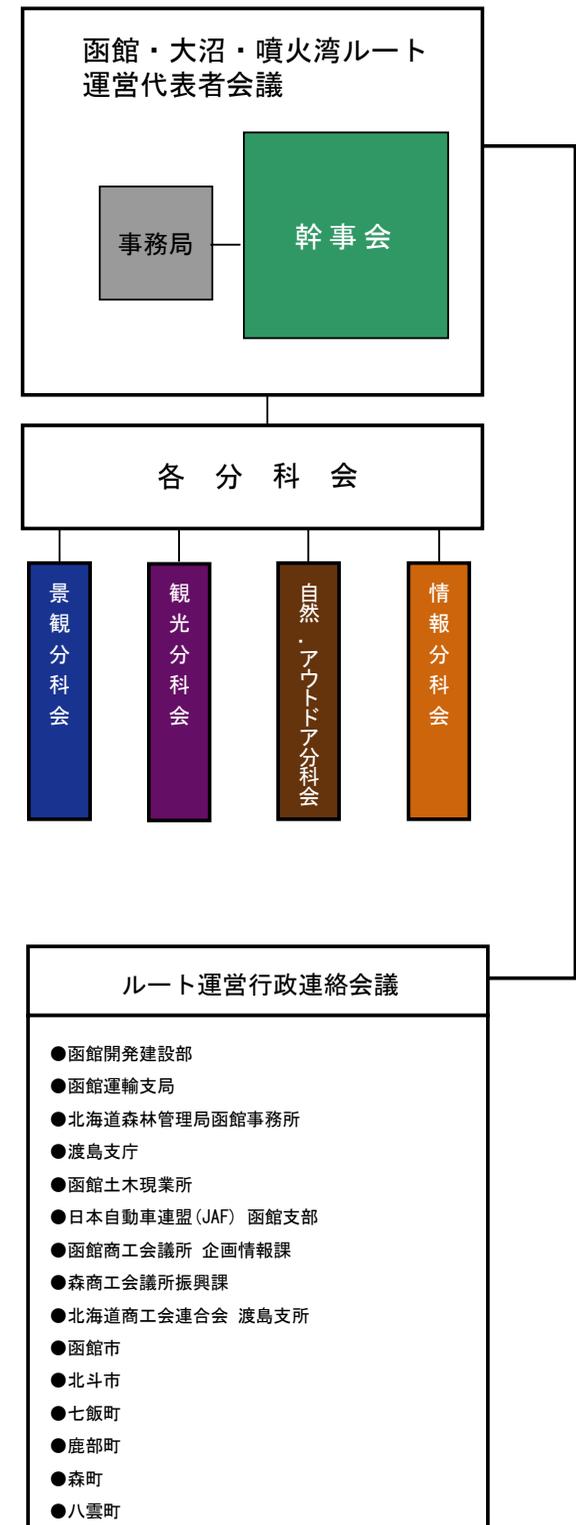
ルート運営代表者会議は、ルート運営に関わる決定機関で、幹事会は、ルートの方向性などを検討する機関とする。分科会は各主要方策の実施にあたって、企画立案実践の実務を中心となって推進する機関となり、事務局はこれらの機関の開催の連絡などの事務的役割を担う機関とする。

■ ルート運営代表者会議、幹事会、分科会の構成

ルート運営代表者会議は、原則としてルートの各活動団体の代表者によって構成することを基本とし、ルート運営代表者会議で同意が得られれば、それ以外の有識者などを加えることができるものとする。幹事会は、会長1名、副会長2名、幹事5名、事務局長1名から構成される。分科会は、分科会の設置目的に賛同する活動団体で組織する。

■ ルート運営行政連絡会議との連携

ルート運営代表者会議は、ルート運営行政連絡会議と積極的な連携を図り、さまざまな事業において協力をする。



4つの活動目標

函館・大沼・噴火湾ルートでは、以下の4つの活動目標を掲げます。

目標-1：地域の誇れる景観を掘り起こし、保全・改善、活用する

目標-2：地域一人ひとりが地域資源の大切さを知り、そしてそれを活かす活動を追求する

目標-3：自然の尊さ、人のぬくもりを伝える

目標-4：ITや地域メディア等を活用した効果的な情報を共有し、発信する

目標-1

地域の誇れる景観を掘り起こし、保全・改善、活用する

■担当：景観分科会

景観分科会では、本ルート上にある歴史を育んできた景観を掘り起こします。そして、地域の人々がそれを理解できるよう、また、訪れる人にその素晴らしさが伝わるよう、この景観を適切に保全・改善し、活用していくことに努めます。

目標-2

地域一人ひとりが地域資源の大切さを知り、そしてそれを活かす活動を追求する

■担当：観光分科会

観光分科会では、本ルート上にある歴史・風土を背景にした地域資源を活かし、地域住民と来訪者の交流を進め、かつ活動団体の連携を通じた観光の質の向上に努めます。

目標-3

自然の尊さ、人のぬくもりを伝える

■担当：自然・アウトドア分科会

噴火によって今の形を成した駒ヶ岳、サケの遡上が見られる遊楽部（ゆーらっぶ）川などの自然の尊さを、その地域に住む人々の“ぬくもり”が伝わるように、ガイドを育成して伝えていきます。

目標-4

ITや地域メディア等を活用した効果的な情報を共有し、発信する

■担当：情報分科会

シーニックなポイント上にある、地元の人達のモチベーションをどうやって高めていくか。各活動団体の情報共有のあり方と、内部への情報発信を高めていくためにはどういう道具を揃えていけばよいのかについて検討していきます。

メンバー紹介
(活動団体概要)

市町村	活動団体	景観分科会	観光分科会	自然・アウトドア分科会	情報分科会
函館市	NPO法人どうなん「学び」サポートセンター		●		
	函館菜の花プロジェクト		●		
	活力ユニット				●
	函館商工会議所青年部	●			●
	南北海道オートリポートネットワーク研究会			●	
	NGO函館自然観察会			●	
	北の縄文CLUB		●		
	函館すぶれっと		●		
	ふしぎな花倶楽部 はまなす会	●		●	
	NPO法人スプリングボードユニティ21	●			
	恵山地区女性団体連絡協議会	●			
	函館商工会議所	●			
	(社) 函館国際観光コンベンション協会				●
	南北海道産業クラスター研究会			●	
	函館21の会			●	
	函館湯の川温泉旅館協同組合	●	●		●
	函館湯の川温泉旅館協同組合青年部	●	●		●
	NPO法人函館エコロジークラブ			●	
	函館手工芸の会	●		●	
函館花いっぱい道づくりの会	●				
北斗市	北斗市観光協会	●	●		
七飯町	七飯町商工会	●			
	大沼観光協会		●	●	
	南北海道交流ネットワークかぜる				●
鹿部町	鹿部温泉観光協会		●		
森町	森町観光ボランティアガイドの会	●	●		
	森町花いっぱい運動推進協議会	●			
八雲町	八雲観光協会		●		

NPO法人どうなん「学び」サポートセンター



代表者氏名：奥平志志

発 足 日：平成16年12月24日

構 成 員 数：106名

団 体 概 要：

「学び」を通じて地域を知り、地域振興や観光振興を図る。

▲3月26日「研究報告会」にて

活動の現状

平成17年度に好評だったものは継続し、また新たにメニューを加えている。

- 会員相互の研鑽のための学び講座（ほぼ毎月）
函館の歴史、港を学ぶ講座を教室で行ったり、函館とその周辺の函館の歴史、港を学ぶ講座を教室で行ったり、函館とその周辺の海洋の環境を学ぶ講座として、船の上から学ぶエクスカージョンも行っている。
- 函館バスと提携して道南の地域資源を学び体験する、学びツアー（ほぼ毎月）
旧恵山町のブナ林を観察したり、鹿部漁協と連携したほたての耳吊り体験など、ルート内の地域資源をうまく活用し、他の活動団体とも連携した活動を広く行っている。

※人材不足、財政基盤の弱さが課題です。

これからの活動

- 今生活している人々の生活の基盤をしっかり支える財政的裏付けをもった地域づくり。
- 情報発信、楳法華を初めとして各地域に地域を支える応援団を増やしていく。

函館菜の花プロジェクト



代表者氏名：石塚大

発 足 日：平成15年2月

構 成 員 数：12名

団 体 概 要：

「育てて・見て・食べて・灯して・そして未来のエネルギーに」をテーマに函館に設立。高田屋嘉兵衛翁ゆかりの菜の花を栽培することにより、函館のシンボルになることを目指す。

▲「菜の花まつり」にて

活動の現状

- 6月に、第4回はこだて菜の花まつり開催
- 8月上旬、菜の花の種収穫収穫
- 9月菜の花種まき会実施予定
- 12月クリスマスファンタジー連動キャンドルナイト開催予定

※今のところ皆様のご協力の下活動させていただいておりますが、今後の活動資金の創出について未定です。

- みんな楽しく種まき会
- 会員の組織に対する帰属意識の欠如、財政難
- 事務局体制の整備・日本一の菜の花畑体験ツアー
- 菜の花サミット
- 菜の花まつり
- 十字街行灯コンサート
- にしん菜の花漬け（商品）

これからの活動

- 各所団体との連携を深め、函館の歴史に根ざした活動を地域の皆様と連動する事が地域のコンセプトを作っていくうえで重要と考えます。

活力ユニット



代表者氏名：丸藤競

発 足 日：平成9年8月

構 成 員 数：7人

団 体 概 要：

若者を中心としたまちづくり活動の企画運営・まちづくり情報の発信等を行っている。

▲「FMいるか」にて

活動の現状

FMいるか『はこだてパワーポケット』（毎週金20：00～22：00）
生放送の企画制作、パーソナリティー等

- ・NPO、NGO情報誌『ボラット』スタッフ（年4回発行）
- ・ハコダテアートフェスティバル（11月上旬）企画運営
- ・函館港イルミナシオン映画祭スタッフ（12月上旬）
- ・青年センターフェスティバル（10月15日）スタッフ

※元気で才能のある若者をどうやってメンバーに入れるかが課題です。

- ・ニューイヤーカウントダウンinハコダテ（12月31日～1月1日）1997年～2001年
- ・ネオミュージックフェスティバル（9月4日）
- ・市民アートフェスティバル（11月1日～11月5日）

これからの活動

- ・人づくりに対してもっと積極的になること。
- ・多くの人や団体の連携により、住みよいまちにしていこう。
- ・活動団体はもちろん、一般市民もがシーニックバイウェイをまちづくりの合言葉にするよう、この活動を浸透させたい。

函館商工会議所青年部



代表者氏名：折谷泉（担当：折谷泉、佐々木哲夫、岩塚晃一、松木志津香）

発 足 日：平成15年5月28日

構 成 員 数：105会員

団 体 概 要：

企業経営者としての研鑽をつみ、企業の発展を図ると共に、函館商工会議所の事業活動への参画と協力を通じて、地域商工業の振興と、地域社会の発展に奇与することを目的に活動している。

▲「はこだてスマイル
キャンペーン」にて

活動の現状

「国際」「街づくり」「交流」「経済情報」の各委員会及び「総務局」により下記のような活動を展開しています。

- ・高速交通ネットワーク実現に向けた調査・研究、フォーラム等の企画
- ・シーニックバイウェイ制度の研究
- ・環境に関する事業の企画立案（クリーン・グリーン&フラワーイベントinはこだての実施ほか）
- ・函館市観光基本計画、街づくり計画との連携
- ・経済圏及び文化圏内の各種団体との交流と連携強化
- ・函館スマイルキャンペーン事業の実施
- ・来函留学生との交流イベント
- ・海外貿易実体験シュミレーションとビジネスミッション

※設立4年目で組織としてまだ未成熟ながら、多岐に渡る事業活動を展開していることもあり、役員等一部メンバーに大きな負担がかかりがちとなっていることが課題です。

これからの活動

- ・函館国際水産・海洋都市構想のもと豊富で恵まれた海洋資源、観光資源が活かされる街づくりが望めます。また青函インターブロック交流圏の構築等、地域間交流・経済交流が盛んな活力と魅力あふれる地域が望めます。
- ・観光資源や観光基盤の整備促進。地域全体のホスピタリティ向上。地域間および活動団体間の交流・連携等を通じたネットワーク機能の強化。

南北海道オートリゾートネットワーク研究会



代表者氏名：仲尾正三

発 足 日：平成2年4月

構 成 員 数：18名

団 体 概 要：

オートキャンプ場を核とする複合的なレクリエーション活動や交流のための拠点の整備の推進、会員同士の交流を通じて情報交換と相互研鑽を行う。

▲「ふれあい縄文
フェスティバル」にて

活動の現状

- ・道南圏域のキャンプ場で地域の資源を活かした体験キャンプを実施
- ・ファミリーで農業体験、漁業体験を実施。地元の農業者・漁業者がインストラクターとなり、それぞれの食材を使って夜の食事などを楽しむ。
- ・戸井のオートキャンプ場では、縄文体験のイベント「ふれあい縄文フェスティバル」など地域の文化と他団体や地域との交流事業も行ってきた。
- ・各地のキャンプ場を目的地に、公道を使ったキャンプ&ラリーを実施。

課題としては、当研究会発足から16年経って年齢層が高くなり、ファミリー層が極めて少なくなっており、活動内容の再検討が必要となっていることです。

☆基本的にオートキャンプ場を拠点

- ・アウトドアフェスティバル（10月10日 白石オートキャンプ場にて）
- ・キャンプ&ラリー（6月25日 函館オートキャンプ場にて）
- ・雪中キャンプ（グリーンピア大沼にて）

これからの活動

- ・本ルートがオートキャンプ場を核とした総合的なレクリエーションエリアとなることを目指す活動。
- ・シーニックバイウェイにおいては、情報、交流、アウトドアなど様々な拠点となるような活動を目指す。

NGO函館自然観察会



代表者氏名：鈴木三郎（担当：鎌鹿隆美）

発 足 日：平成2年4月

構 成 員 数：70名

団 体 概 要：

函館山、函館近郊の植物、野鳥、景観などを観察しながら地域の自然を保護していく活動を主とする。

▲6月16日「黒松内添別溪谷
& ブナ林観察会」にて

活動の現状

5月7日	* 函館山 宮ノ森～立待岬	20名参加
6月4日	* 赤川笹流れダム周辺	18名参加
7月16日	* 黒松内 添別ブナ林	34名参加
9月24日	* 函館山 千畳敷周辺	
10月8日	* 函館山 観音コース	
11月27日	* 総会 懇親会	

※課題

- ・リーダー等の人材不足。会員の高齢化など
- ・自然公園など緑地の案内が不足しているなど情報不足

- ・盗掘防止市民集会（1999年）
- ・函館山 宮の森～立待岬コース（平成17年5月15日）
- ・狩場山（平成17年6月19日）
- ・函館山 旧山道～入江山（平成17年7月10日）
- ・函館山 旧山道～観音コース（平成17年9月18日）
- ・八甲田山（平成17年10月7～8日）

これからの活動

- ・函館を取り巻く自然生態系は陸域のブナ帯、海域の寒流暖流の交差などによる特異な自然系に囲まれた地域である。特異な自然系の中では景観、食感、風土などが他とは違う特色を持つのでそれらに光をあてることで観光利用、生涯学習や地域特性に鑑みた保護が期待できる。
- ・未活用な自然の整理と有効利用。
- ・自然保護、景観保護。
- ・風土と自然の連携など。

北の縄文CLUB



代表者氏名：中浜悟（担当：坪井睦美、嵐田美代子、大宮トシ子）

発 足 日：平成10年4月

構 成 員 数：約70名

団 体 概 要：

豊かな自然と共に生きた縄文の精神と文化を学び、北の縄文文化を広く普及することを目的とし、その目的を遂行するため、研究活動などの事業を行う。

▲6月17日
「大船遺跡周辺清掃」にて

活動の現状

- 6月17日 大船遺跡周辺清掃
- 7月29日 コモチづくり
- 9月16日 アンギン編み機作成
- 10月5日 縄文シティサミット参加協力
- 10月7日 縄文市民サミット参加協力（土器作り、アンギン編みなど）

また、上記の活動の他に、野焼き、釣り針づくり（鹿角）、縄文の糸づくり、櫛づくりなどの活動を行っている。

これらの活動を通して、縄文文化の普及、体験講座の充実、また縄文時代の交流をもとに、道内外の関係団体との交流を深める。

これからの活動

- ・縄文の遺跡を活用してより多くの地域の体験活動を通して縄文の魅力を伝えていきたい。
- ・縄文文化をテーマとした広域観光の拠点となるよう活動を行っていきたい。

函館すぷれっと



代表者氏名：佐藤尚子

発 足 日：平成12年5月

構 成 員 数：30名

団 体 概 要：

障がいの種別を越えて心のバリアフリーを心がけ、まちづくりに参加している障がい児者の会です。

▲奥尻町にて

活動の現状

- 7月 1日 「社会で支える子育て」函館大学
- 7月 2日 インクルーシブ友の会「ふれあいレクリエーション」
北海道道立四季の杜公園（車いす講しょう当）
- 7月 4日 青柳学園「保護者の願い」提出
- 7月 6日 役員会（代表佐藤宅）
- 7月23日 虹と夢の工房フリーマーケット参加
- 7月29日 青函ジョイント夏フェスタ2006摩周丸ラウンジ
客船「飛鳥II」停泊歓迎セレモニー（10：00～16：00）
港町ふ頭岸壁にて（屋台出店）
- 8月 9日 開発「みずなぎ」乗船函館港湾見学（PM2：00～）
- 8月10日 函館すぷれっと「夏祭り」北海道健康保健センター
ポッチャで勝負だ！！（9：30～13：30）

障がいについてもっと多くの人に知ってもらい、また私たちも地域に貢献して住みやすいまちづくりに参加していくことに頑張っています。ただ、困っていることとしては、お互いの障がいを理解し、今住んでいるまちをどんな人にも優しくできる地域にしていくための、話し合いの場所や活動場所が不足していることです。

これからの活動

障がいの有無を問わず、どんな人も安心して歩ける優しい町づくりや、たとえ建物に障害があっても思いやりの心を持てば全ての人に優しくできる人づくりも行っていきたい。

また、シーニックを通して、観光・歴史・文化において、自信を持ってわがまちを語れる人たちが沢山できるような、もっと魅力ある地域・まちにしたいと思えます。ゆっくと時の流れを感じ、安心して目的地に着ける“ホッ”とする、優しさがある地域づくりを…。

ふしぎな花倶楽部 はまなす会



代表者氏名：明本修一（担当：吉村睦子）

発 足 日：平成3年9月

構 成 員 数：1150名（函館5,60人 札幌300人）

団 体 概 要：

押し花インストラクターの集まりで、アートクラフトな押し花の普及

▲「2005青函ツインシティ
押し花絵画展Ⅳ」にて

活動の現状

- ・6月10日 函館花いっぱい道づくりの会の植栽活動へ参加
- ・11月21日～11月24日 押し花コンテストin札幌
- ・11月30日～12月3日（青森にて）青森市民美術館
- ・2006青函ツインシティ押し花絵画展Ⅴ
- ・12月20日～23日 札幌ギャラリー大通り美術館チャリティクリスマスアート展
- ・押し花勉強会（年に5回程度）
各地から先生を招き、会員のスキルアップを目指す

※各種団体などとの連携プレーができていない
（情報収集や仲間意識の低さ）ことが課題です。

- ・第5回小樽雪あかりの路フェスティバルへの参加（平成15年2月）
- ・押し花採集合宿（平成15年5月 比布町）
- ・青函ツインシティ押し花絵画展開催（平成15年9月 函館） など

これからの活動

- ・やさしい心を持った人々の集まるやさしい街。
- ・シーニックバイウェイによって提供された場所で、押し花を使ったアクセサリーなどを提供・販売していきたい。

NPO法人スプリングボードユニティ21



▲6月1日函館空港にて

代表者氏名：折谷久美子

発 足 日：平成12年6月

構 成 員 数：40名

団 体 概 要：

スプリングボードとは跳び箱の跳躍板。地域資源を活用しながら、誰もが気軽に楽しく、まちづくりに参加でき、活動を通して人と人の心が通じる元気なまち函館の実現に向かって活動しています。

活動の現状

- 6月1日 函館空港にて 函館～ソウル定期便就航歓迎イベント実施
- 6月3日 道道本通富岡線（延長約1km） 沿道花いっぱい活動実施（11月上旬まで）
- 7月15日 道道空港線（延長約600m） 沿道植栽活動実施（10月下旬まで）
- 8月3日 開港147周年記念函館港まつりイカ踊り参加（審査員特別賞受賞）
- 8月9日 函館港湾事務所「みずなぎ」乗船 函館港視察
- 10月1日 第2回NPOまつり参加

特に頑張っている活動として、開港都市函館の歴史や文化を、お祭りやイベントなどを通して多くの人に伝える活動。準備段階から心が一つとなっていきます。しかし、特定のメンバーに負担がかかっていることと資金不足が今後の課題です。

これからの活動

- ・住んでいる人が明るく元気に活気に溢れ、夜景に負けにくい日中も函館のまち全体が、きれいで光輝いています。住んでいる人が「いいまち」と思えるまちは、訪れる人にとっても「いいまち」です。そのようなまちになるよう活動をおこなってまいります。
- ・シーニックバイウェイを通して、冬場は台湾などの観光客も増えているので、他の団体と連携して、雪によるシーニックイベントを実施してみたい。

恵山地区女性団体連絡協議会



代表者氏名：及川良子

発 足 日：昭和34年4月

構 成 員 数：250名

団 体 概 要：

恵山地区女性団体は各地区7団体にて構成されています。

▲7月1日恵山地区植栽にて

活動の現状

恵山地区女性団体連絡協議会は、恵山岬地区・恵山地区・女那川地区・古武井地区・日の浜地区・日浦地区・大間地区で構成されています。主に旧恵山町の行事に実行委員会として協力・参加しています。

- ・7月1日恵山地区における植栽活動
- ・道の駅（なとわ恵山）海浜周辺ゴミ拾い（9月予定）
- ・春と秋は全町一斉にクリーン作戦を行っております。
- ・恵山納涼まつり・盆踊りなどの実行委員会を勤める

※日の浜地区以外の地区では漁業関係の会員が多い為、7月から10月頃まで昆布漁のために会の活動ができません。そのため、漁業関係の会員が唯一少ない日の浜地区会員が、会の活動のほとんどをこなすため、かなり忙しくなることが課題です。

これからの活動

- ・恵山道立自然公園であり、日浦洞門あり、恵山の山は618mの活火山と霊山とたくさん名所があり、道道恵山線が出来上がると発展すると思う。
- ・国道の美化活動に参加協力し、道端を花いっぱいにする運動をしていきたいです。

函館商工会議所



代表者氏名：高野洋蔵（担当：矢野一英）

発 足 日：明治28年9月29日

構 成 員 数：2,821会員

団 体 概 要：

「商工会議所法」に基づいて設立された特別認可法人

▲シーニックバスツアーにて

活動の現状

- ・「中小企業相談所」および「中小企業支援センター」を窓口とした経営相談
- ・北海道新幹線や北海道縦貫自動車道など高速交通体系の整備促進
- ・函館港や函館空港、函館駅前再開発など拠点整備等各種プロジェクトの促進
- ・函館国際水産・海洋都市構想や地域高度情報化、中心市街地活性化の推進

平成18年度の具体的な事業展開としては、

- ・「全国商工会議所観光振興大会2006inはこだて」の開催
- ・函館歴史文化観光検定（はこだて検定）を実施します。

※少子高齢化の進展、産業構造等経済環境の変化に加え、函館地域の地理的な要因もあって、本所の会員対象となる事業所数が著しく減少し、会員数が減少傾向となっていることから、積極的、効果的な事業を展開するためにも組織基盤の強化が急務となっています。

これからの活動

- ・函館国際水産・海洋都市構想のもと豊富で恵まれた海洋資源、観光資源が活かされる街づくりが望めます。また青函インターブロック交流圏の構築等、地域間交流・経済交流が盛んな活力と魅力あふれる地域が望めます。
- ・観光資源や観光基盤の整備促進。地域全体のホスピタリティ向上。地域間および活動団体間の交流・連携等を通じたネットワーク機能の強化。

(社) 函館国際観光コンベンション協会



代表者氏名： 沼崎弥太郎（担当：三浦孝史）

発 足 日： 昭和10年4月24日

構 成 員 数： 551会員

団 体 概 要：

函館市及び函館市を中心とする南北海道の観光産業の振興を図り、国内外からの観光旅行者の利便の増進並びに市民生活の向上及び繁栄に寄与することを目的とする。

▲「韓国国際観光展」
函館ブースでの函館PRにて

活動の現状

- ・国内国外の観光客、コンベンションの誘致及び観光宣伝
- ・観光及びコンベンション施設の整備、改善
- ・観光資源の保全、開発及び観光地の美化
- ・観光地にふさわしい風土、文化の創造、観光及びコンベンション関係者の資質の向上
- ・観光及びコンベンション事業に関する調査研究と観光及びコンベンション情報の収集及び提供
- ・函館市から委託する観光及びコンベンション施設の管理運営
- ・その他目的を達成するために必要な事業

これらの事業を行っているが、特に頑張っている活動として、広域観光促進、国内及び海外からの観光客誘致を行っている。

これからの活動

- ・滞在型広域観光の定着
- ・広域観光の促進
- ・ホスピタリティの向上

南北海道産業クラスター研究会



代表者氏名： 高井秀昭

発 足 日： 平成11年4月

構 成 員 数： 10名

団 体 概 要：

道南地域の経済の自立と産業基盤の強化のため、産業クラスター創造に向けて、産官学が協力しながら調査研究を進める。

活動の現状

- ・各種勉強会、フォーラム等実施
- ・主な活動として、未利用海藻の調査・研究・製品化への試みを行ってきた。
- ・養殖コンブ、通称ガニ足の利用について
- ・ガゴメコンブ（フコイダン）の活用については、近年都市エリア事業として、増養殖技術の研究が行われ、かなりの数の製品化が行われている。
- ・管内の農・林・漁業の情報収集と交流の中から、新しい産業の可能性を探っている。
- ・課題としては、事業化・製品化の成功事例が少なく、多様な業種からの会員増強と人材発掘。

これからの活動

- ・地域資源とシーズ・ニーズを再度調査し、地域の大学・研究機関と連携しながら、産業化・起業化を目標とした活動を行ってきたい。
- ・シーニックバイウェイ活動における地域資源の中から、起業化できる事項を発掘し、地域の活性化につなげる活動を行ってきたい。

函館21の会



代表者氏名：折谷泉（担当：村上元宏）

発 足 日：平成3年6月

構 成 員 数：30名

団 体 概 要：

グローバルな視点に立って、ローカルから発信することを基本に、地域の振興と発展を目指すことを目的とする。

▲スポーツ
フェスティバルにて

活動の現状

- 各種講演会、フォーラムの実施
- 他団体と実行委員会を組み、各種事業を開催。
- 各種勉強会の実施
高速交通体系、都市計画、まちづくり、健康、福祉、経済、産業など
- 各種イベントの実施
「フレンドリーワールド北海道&DPIブレはこだて」
「ちびっこお祭り広場」
「縄文ロマンロード実証事業」など
- ロシア極東大学留学生支援実行委員会（10年継続中）
- エストニア舞踏団招へい事業
- 21世紀の贈り物事業（函館の各界の人物による伝承）

課題としては、各会員が多忙を極め、活動が減少していること。また、時代に対応すべく20代、30代の会員の参加を要請していかねばならないこと。

これからの活動

- シーニックバイウェイの活動との連携、またグローバルな視点でローカルから様々なことを発信する事業、活動を行っていききたい。
- 15年間の活動を通してつながった人脈、情報、経験を活かし、新しい世代を取り入れ、共に学び、共に行動する活動を行っていききたい。

函館湯の川温泉旅館協同組合



代表者氏名：理事長 金道太郎

発 足 日：昭和26年

構 成 員 数：28社

団 体 概 要：

旅館業を行う事業者で構成する団体である。

▲7/15道道函館空港線
植栽にて

活動の現状

「はこだて湯の川オンパク」の開催

※各団体が微妙に温度差があることが課題です。

- 漁火まつり
- フラワーロード（V.S.P）
- 湯の川温泉街活性化事業（平成元年～平成16年）

これからの活動

- 函館大学、工専、有斗、湯川中学校、湯川小学校など、湯の川近辺に多くのキャンパスがあり、彼らが湯の川に買い物にきてくれたり、色々な形で深く関わっていけるようにしたいと思います。
- 国道278号線を中心としてここに生活している人々がすべて幸せになり、その道を利用する観光客も幸せになること。

函館湯の川温泉旅館協同組合青年部



代表者氏名：中野惣夫
 発 足 日：昭和55年
 構 成 員 数：10名
 団 体 概 要：
 旅館業を行う事業者で構成する団体である。

▲花の手入れ作業にて

活動の現状

- ・松倉川などの湯の川近辺の清掃活動
- ※人員が元々少ないため、制限された活動しか行えないのが課題です。
- ・花いっぱい運動
- ・松倉川清掃
- ・漁火祭り

これからの活動

- ・観光客だけでなく地域の人たちも足を運んでもらえるように、ルート全体がひとつの宿泊施設を演出できるような地域。
- ・道を通じて、このルートがひとつのまちとして確立できるように他地域と連携して活動を行っていきたい。

NPO法人函館エコロジークラブ



代表者氏名：福西秀和(担当：鈴木繁幸)
 発 足 日：平成14年7月23日
 構 成 員 数：127名
 団 体 概 要：

未来社会を担う子どもたちのために、生物とのふれあいの場で、自然環境を大切に、心豊かな社会性を育み、人々と生物が互いに共生していけるまちづくりに寄与することを目的とする。

▲赤松こも巻きにて

活動の現状

- 4月16日 記念講演会「植物あれこれ！藤昌先生」
- 5月13日 サンショウウオの卵プレゼント
- 5月21日 植物園プランター作り
- 6月10日 オタマジャクシの卵プレゼント
- 7月2日 第4回植物園記念祭
- 7月9日～11日 ホタル鑑賞会
- 8月6日 赤松観察会
- 10月15日 赤松こも巻き
- 平成19年3月18日 赤松こも外し

- ※課題
- ・事務局員等の人材不足
 - ・活動資金不足

- ・函館市営熱帯植物園の維持・管理及び活性化事業（3年目）
- ・赤松街道の観察会、こも巻き、こも外し（国と契約）
- ・亀田川河岸の桜の剪定・雑草取り等の清掃活動
- ・函館市桔梗町のインターチェンジの桜の試験移植（47本）（国と契約）

これからの活動

- ・函館の市街地を流れる松倉川や亀田川流域にも、40年程前まではホタルがたくさん飛んでおりました。家庭からの生活排水や合成洗剤などが多量に流れ、川が汚染されてきたため、ホタルの姿を見ることができませんでした。しかし、地元に住むボランティアの方々が「ホタルの会」を結成して、自然環境を大切に、川の清掃などを永年続けて、きれいになった松倉川下流では、現在、たくさんのホタルのほか、水生生物も見られるようになりました。私達は、未来社会を担う子どもたちのために、大切な自然環境を無事守って引き継ぎ、水資源を大切にして、人々が安心して暮らせる世の中になりたいと思っております。
- ・子どもたちの環境教育
- ・自然環境の保護、保全

函館手工芸の会



代表者氏名：坂下みどり

発 足 日：平成18年7月

構 成 員 数：10名

団 体 概 要：

手工芸の技を活かして、まちづくり、人づくりなどを主にした活動。

▲押し花講習会にて

活動の現状

9月26日～10月3日	展示発表会（inイカすホール）
10月1日	NPO祭り参加予定
10月14日	花いっぱい道づくりの会の活動参加予定
11月4日	花いっぱい道づくりの会の活動参加予定
11月11日、12日	まなびっと1日体験講座へ講師参加予定

発足して間もない為、今後の活動の模索と活動資金の不足が課題です。

これからの活動

- あふれる程の観光資源に恵まれながらも旧態依然の観光情報の発信と感じます。何度訪れても再発見があるという、人を魅了するまちづくりを行ってきたい。また、シーニックバイウェイを通して、参加団体が仲間意識を持って情報を共有し、つながりあったまちづくりを行っていきたい。

函館花いっぱい道づくりの会



代表者氏名：折谷久美子

発 足 日：平成16年4月

構 成 員 数：19団体

団 体 概 要：

函館新道において道路の清掃美化活動を実施する活動

▲6/10クリーン・グリーン
フラワーイベントにて

活動の現状

「北の道普請を育てる会」より「優秀賞」授賞／平成18年2月
「北海道みちとくらしと未来のネットワーク委員会」より
「北海道みち百選（地域づくり部門）」授賞／平成18年3月

6月10日	函館新道石川・桔梗地区にて V.S.P花いっぱい活動（植栽） クリーン・グリーン・フラワーイベント実施（清掃・美化）
7月8日	全体活動日（雑草取り・ゴミ拾いなど）
8月12日	全体活動日（雑草取り・水やりなど）
9月9日	全体活動日
10月14日	全体活動日
11月4日	全体最終活動予定日（花苗撤去）

特に頑張っている活動として、札幌方面から車で来られる方には玄関口となる函館新道をお花で飾って「きれいな道」で地域一丸となっておもてなししています。しかし、花苗購入の資金が専ら寄付に頼っていて、また、維持活動が天候に左右されるため、計画が予定通りに進まないことが今後の課題です。

これからの活動

- シーニックバイウェイを通して、お花の咲いていない時期も、函館新道における「おもてなし」の活動を実施したい。冬は、クリスマスシーズン頃、キャンドルなど灯りによるおもてなしを沿線企業と協力して実施したい。歩道の砂時きなども試験的に行ってみたい。春秋には、新道の歩道をキャンパスに見立てて、アレンジメントの展示など（台風による倒木や松を利用し）実現したいと夢見ています。沿線の小・中・高校、町会など19団体が構成しておりますので、体験しながら教育の一環としても地域活動に積極的に取り組みたいです。

北斗市観光協会



代表者氏名：佐々木博史

発 足 日：昭和60年7月

構 成 員 数：146名

団 体 概 要：

北斗市における観光資源の宣伝、施設の充実及び観光客受け入れ体制の強化を図り、もって観光事業の発展に寄与することを目的とする。

活動の現状

1. 各種イベントの開催及び協賛
 - ①陣屋桜まつりの協賛
 - ②八郎沼まつりの協賛
 - ③北斗市夏まつりの協賛並びに花火大会の開催
 - ④商工観光まつりの共催
 - ⑤北斗市さけまつりの協賛
2. 観光情報の収集並びに発信
3. 観光施設等の紹介並びに 観光案内板の設置

旧上磯町・大野町両観光協会が合併して北斗市観光協会となったことから、早く一体感がもてる組織活動を行っていきたい。ただ、会員の組織に対する帰属意識の欠如、財政難、事務局体制の整備といった問題点もある。

これからの活動

- 高速自動車道の整備、北海道新幹線の開通など観光産業としては、大きな期待のもてる地域であり、最大限の活用を図ることにより、調和の取れた地域となる。また、北海道で一番温暖な地域であり、自然災害の少ない地域でもあることから、安心して、楽しい旅行ができるよう他団体と連携協力して、多くの来客者をお招きしたい。

七飯町商工会



代表者氏名：横田有一（担当：林須美一）

発 足 日：昭和45年9月10日

構 成 員 数：355名

団 体 概 要：

商工会法に基づいて、知事の認可によって設立された公益性の強い法人で、地区内の商工業の総合的な改善発達を図るとともに、社会一般の福祉の増進に資することを目的に幅広く活動しています。

▲6月17日

「花いっぱい事業」にて

活動の現状

- 《地域振興事業》として
- 納涼夜店事業
 - 物産協会設立推進事業
 - 共通商品券推進事業
 - イルミネーション事業
 - 三木町との交流事業
 - 花いっぱい事業
 - 北海道新幹線陳情活動

※事業予算が年々減少していることが課題です。

- 花いっぱい事業（平成17年度七飯商工会事業で大中山地区の国道5号線沿いにプランター役300個設置する）

これからの活動

- 観光や農業がますます盛んになり、だれもが住んでみたいまちになる、またなるよう努力する。
- シーニックパイウェイ活動をまちづくりの一環として取り入れていきたい。

大沼観光協会



代表者氏名：堀元（担当：渡辺邦浩）

発 足 日：昭和24年5月13日

構 成 員 数：103名

団 体 概 要：

本協会は大沼国定公園及び七飯町周辺地域の紹介、宣伝、観光事業の開発と進行諸施設の充実と自然保護を図り生活文化の向上並びに観光産業の振興と併せて観光事業の発展に寄与することを目的とする団体である。

▲7月25日
「ひまわり畑除草作業」にて

活動の現状

- 4月 駒ヶ岳・大沼湖水安全祈願祭
- 5月 第53回大沼湖畔駅伝競走大会
第26回北海道大沼へら鮎釣り大会
- 7月 第97回大沼湖水まつり
- 8月 第7回大沼陶芸まつり
- 10月 第5回巨べら大会、駒ヶ岳安全祈願祭
第32回大沼紅葉まつり、2006北海道大沼グレートラン・ウォーク
- 1月 2007函館大沼国際クロスカントリースキーフェスティバル
- 2月 第41回大沼函館雪と氷の祭典

※課題

- ・宿泊客、日帰り客の減少
- ・宿泊施設の閉鎖
- ・任意団体のため、収益基盤がなく活動が制限されている
- ・駒ヶ岳開山祭のゴミ拾い（4月29日）
- ・クリンデー（6月1週）
- ・流山温泉でのひまわり畑造成

これからの活動

- ・道南全体のツアーデスク的な役割を担う。
- ・大沼区のすばらしさを皆さんに知っていただき、道南各地域の良さを知り、取り込み、お客様へ紹介する時の情報源とする。
- ・道南各地域・団体との連携。

南北海道交流ネットワークかせる



代表者氏名：勢田友美

発 足 日：平成15年10月1日

構 成 員 数：30名

団 体 概 要：

他のNPO団体などの活動に参加協力することで、函館のまちづくりに寄与する。

▲カレーフェスタにて

活動の現状

- ・クリスマスリースづくりなどの他団体の活動
- ・フォーラム参加
- ・ポラット編集に協力
- ・イルミネーション映画祭協力

※様々な活動を行う上で、活動団体内の連携だけで出来ることには限度があり、外とのつながりが不足していることが課題です。

これからの活動

- ・様々な人とのつながりを持ち、活動団体を問わず新たな連携をした活動が、この函館に根付いていくこと。
- ・ポラットやFMいるか通信など函館には様々な情報を扱った情報誌があるが、シーニックを通して情報の一本化を図っていきたい。

森町観光ボランティアガイドの会



▲桜まつりボランティアガイド実践にて

代表者氏名：手代木惇

発 足 日：平成17年2月4日

構 成 員 数：23名

団 体 概 要：

平成16年2月4日、24名で会を結成
※地域観光推進による町おこし
(観光ボランティアガイド活動)

活動の現状

- ・ホスピタリティ精神の普及啓発
- ・森町のPRとイメージアップ活動
- ・会員相互の資質向上

平成18年4月	ガイド研修
5月	森町桜まつりガイド実践(5月3日~5月20日)
7月	ガイド研修
8月	森町夏祭りinもり(イベント)へ参画
9月	観光ボランティアガイド全道大会(研修のため参加)
10月	” ” 全国大会(” ”)
11月~3月	ガイド研修、他地区ガイドの会との合同研修等

※課題

- ・経験不足による活動の不安定
- ・活動資金

これからの活動

- ・観光資源を十分活かしてきれていないので町民を巻きこんで、一層の観光資源活用に取り組みたい。
- ・各地の団体とシーニックバイウェイの活動を連携し、活性化を図ってきたい。

森町花いっぱい運動推進協議会



▲除草活動にて

代表者氏名：伊藤勲二

発 足 日：平成4年4月

構 成 員 数：108団体

団 体 概 要：

森町と合併する前、「花いっぱい運動」の一環で取り組んできた花の植栽活動。昨年4月の新町誕生後、森町花いっぱい運動推進協議会を組織し、活動を継続。

活動の現状

5月19日、20日、21日 フラワーロードにおける植栽活動
月1回の除草活動

フラワーロードの植栽活動や維持活動には、20の町内会や、教育関係・医療福祉関係・行政関係等の33の団体や、42の企業、そして13個人が関わって行われている。また、旧砂原町だけで構成されておらず、旧森町の参加もあり、新森町として活動が広がっている。しかし、108団体という大きな組織で、町全体が一体となった組織であるが、実際に活動に参加するのは、高齢者がほとんどであり、若者の参加がこれからの課題でもある。

これからの活動

- ・今後も植栽活動を続けていき、森地区にも広げていきたい。また、フラワーロードの知名度を活かして、観光資源として扱っていきたい。
- ・ルート内の他団体との連携を通して知識・技術・情報を共有することで、ルート内に統一性のある植栽を進め、観光資源として広めていきたい。

鹿部温泉観光協会



代表者氏名：吉康郎

発 足 日：昭和49年2月26日

構 成 員 数：87名

団 体 概 要：

鹿部町の観光振興に寄与するためにつくられた団体。

▲ほたての耳吊り体験にて

活動の現状

7月8日 鹿部稻荷神社大祭奴行列

8月19日 しかべ海と温泉（いでゆ）のまつり協賛花火大会

鹿部温泉観光協会の事務局機能が役場内にあり人員を割けないことが課題です。

これからの活動

- 道南圏域における観光客の相乗効果
- ルートの観光協会が連携した情報発信と情報共有

八雲観光協会



代表者氏名：鈴木 謙

発 足 日：昭和40年7月27日

構 成 員 数：87名

団 体 概 要：

八雲町の観光振興に寄与するためにつくられた団体

▲8月6日やくも牧場まつりにて

活動の現状

1. 各種イベントの開催及び協賛

①第42回さらんべ公園桜まつり 5月14日

②第26回落部公園つつじ祭り 6月4日

③八雲神社例大祭第23回歩行者天国 6月21日

④やくも牧場まつり 8月6日

⑤第17回やくも大漁秋味まつり 10月22日予定

⑥その他各種イベントの協賛、後援

2. 視察研修・学習会の実施

3. 地場産品並びに観光の宣伝紹介

4. 名刺台紙・記念切手の販売

5. 観光情報の収集並びに観光客への八雲町観光情報の提供

6. 組織の強化

※町として、参加意識をもっと高めていく必要がある。

※強いリーダーシップと、資金調達の工夫が必要。

これからの活動

- 道南北部における拠点（文化・経済・観光）として地域のリーダーとして活躍できる事。
- 道南観光の幅広い振興（互いの持っている利益を生かして）PR、仕組みの共有化。

<景観分科会>

目標— 1

**地域の誇れる景観を掘り起こし、
保全・改善、活用する**

■ 担当：景観分科会

景観分科会では、本ルート上にある歴史を育んできた景観を掘り起こします。そして、地域の人々がそれを理解できるよう、また、訪れる人にもその素晴らしさが伝わるよう、この景観を適切に保全・改善し、活用していくことに努めます。



リーダー

佐々木哲夫

(商工会議所青年部)



サブリーダー

林須美一

(七飯町商工会)

<本ルート of 景観資源>

みなさんの住む場所から見える景色の数々…。その中には、観光パンフレットなどに掲載されている場所だけからでは決して見ることの出来ない、素晴らしい感動があるはずです。それは、絶好の隠れポイントであったり、個人的な思い出のある場所であったり…。

私たちでさえ、まだ気づいていない美しくも変化し続ける様々な画を、多くの人々と共有し、伝えあっていきたいと考えます。

1) 異国情緒あふれる函館の歴史的街並み

異国情緒あふれる函館の街並みは、その歴史的な背景に基づく時代の変化と、そこに根を下ろしてきた人々の希望と、たゆまざる努力の結晶が織りなす一つの芸術なのです。



日本の道百選 函館市・大三坂



函館市・基坂

2) 北海道創成を司る自然界のモニュメント、駒ヶ岳

アイヌの神オキクルミが創ったという雄大な土地、北海道一。
この地に火をもたらした結果誕生したのが駒ヶ岳であると言い伝えられています。
こうした神秘的な言い伝えはこの地に数多くあります。
大沼で、噴火湾で...、色々な角度から駒ヶ岳を望む住民たちは、
いつでもこの美しい景色と共に暮らす喜びを感じています。



大沼から見た駒ヶ岳



旧砂原町から見た駒ヶ岳



森町から見た駒ヶ岳



鹿部漁港から見た駒ヶ岳

3) 春から夏にかけての躍動感ある生活情景

北海道で一番早い春の訪れ一。

やがて訪れる短い夏を思いながらの桜、イカ漁、コンブ漁…。

美しく移り変わる景色の色どりを肌で感じながら、力強く躍動感のある生活風景が流れていきます。



函館市・松陰桜並木



森町・フラワーロード



函館市・恵山地区植栽風景
(恵山地区女性団体連絡協議会提供)



函館市・漁り火



函館市・コンブ漁



函館市・函館どっく進水式

目標-1 地域の誇れる景観を掘り起こし、保全・改善、活用する

景観分科会では、本ルート上にある歴史を育んできた景観を掘り起こします。そして、地域の人々がそれを理解できるよう、また、訪れる人にその素晴らしさが伝わるよう、この景観を適切に保全・改善し、活用していくことに努めます。

基本方針

- 1) 美しい景観とは何かについて考える
- 2) ビューポイントを発掘する
- 3) ビューポイント周辺の景観向上に取り組む

1) 美しい景観とは何かについて考える

平成15年度から地域住民が参加して、有識者・学識者の助言を頂きながら、沿道の景観診断を行っています。景観というのは主観的要素も含むものですから、万人に共通の認識を得ることは難しいのですが、分科会等で議論しながら徐々に理解を深めているところです。

取り組み① 景観診断の参加

二日間に渡って行われたH17年度景観診断は、エリア内の活動団体が約30名参加し実施されました。バスによる現地確認・診断の後、函館工業高等専門学校の荻澤（にらさわ）教授を囲んでの意見交換会も行われました。

取り組み② テーマごとのエリアの紹介

美しい景観とは何かを考えるに当たり、エリア内の美しくしたい景観を探していきます。また、その他のテーマとして、「絶対残したい木」や「思い入れのある物」についても考えていきます。



取り組み①
平成17年度 道路景観診断

道の駅「なとわ・えさん」前でバスから下車し診断を行いました。



取り組み② 絶対残したい木
(森観光協会提供)

この写真は、緑色をした桜で御衣黄（ぎょいこう）と言うそうです。

2) ビューポイントを発掘する

景観診断を通じて、この地域の美しい景観・ビューポイントについて、例えば知らない駒ヶ岳の形が見えたなどの沢山の意見が出されました。しかしまだ、寄せられた情報に対応した美しい景観の写真が揃っておらず、フォトライブラリーの構築が課題です。そのため、シーニックフォト倶楽部を設立し、アマチュアカメラマンなどの参加を募って、発表の機会も設け、優れたビューポイントをPRするための準備を整えています。

また、実際にビューポイントの発掘・再確認をするために、シーニックバスツアーを開催しました。

取り組み① シーニックフォト倶楽部の設立

美しい景観の写真を収集するために、自分たちで声掛けしアマチュアカメラマンの参加を募り、シーニックフォト倶楽部を設立しました。今後は、既に支援センターで設立されているシーニックフォト倶楽部との連携も視野に入れた活動を行います。

取り組み② H17シーニックバスツアーの開催

H17各地を回り地域資源・伝説などを地域住民に教えてもらいながら実施しました。

取り組み③ シーニックルートマップの作成

ビューポイントや情報拠点などの情報が入ったシーニックルートマップ（ビューポイントマップ）を作成しました。今後はビューポイント発掘に一層の磨きをかけて、秋・冬バージョンを作成します。

取り組み④ フォトコンテストの開催

フォトコンテストを開催し、地元のギャラリーなどに展示して、一般の人にも採点・投票してもらいます。集まった写真を基に、フォトカードの作成などが可能かどうか検討します。



取り組み②
シーニックバスツアーの開催

戸井アーチ橋の歴史などの解説を受けました。



取り組み③
シーニックルートマップ



取り組み④
フォトコンテスト審査風景

3) ビューポイント周辺の景観向上に取り組む

主としてビューポイントの周辺を対象に、どのようにその美しい景観をよりよく見せることができるか、について考えています。活動団体の連携（函館花いっぱい道づくりの会、ルート運営代表者会議共催）による沿道周辺の花植・清掃活動（Clean Green Project）を始めています。また、函館道路事務所に要望し、一部区間で景観の阻害となる矢羽根の撤去を実現しました。

取り組み① 清掃活動の実施

函館の陸路のゲートウェイ、函館IC付近から産業道路までの沿道の清掃活動を行いました。沿道周辺の清掃活動は植栽活動が行われている所で毎年場所を変えて実施します。

取り組み② 植栽活動の実施

函館花いっぱい道づくりの会（19団体で構成、うち3団体がシーニックバイウェイ参加団体）による植栽活動を函館新道で行いました。平成18年度は、取り組み①の清掃活動と合わせたイベントとして、クリーン・グリーン&フラワーイベントを行いました。函館花いっぱい道づくりの会とルート運営代表者会議が初めて連携した取り組みでした。

またその他に、NPO法人スプリングボードユニティ21主催の道道函館空港線での植栽活動や、花いっぱい運動推進協議会（森町）主催のフラワーロードでの植栽活動も行われました。

取り組み③ 景観阻害の改善

エリア内の景観阻害要因を議論抽出し、改善に努めています。今年は函館道路事務所に要望し、函館新道沿いの一部区間で景観の阻害となる矢羽根の撤去を行いました。



取り組み①
清掃活動の実施

6月10日、約40名が参加し、雨の中カッパを着ながら清掃活動を行いました。



取り組み②
植栽活動の実施

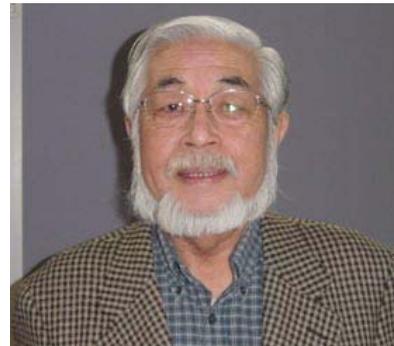
今年で3年目の取り組みで約600名が参加。残念ながら雨模様でしたが、花にはちょうどいいのかも・・・

<観光分科会>

目標—2 地域一人ひとりが地域資源の大切さを知り、そしてそれを活かす活動を追求する

■ 担当：観光分科会

観光分科会では、本ルート上にある歴史・風土を背景にした地域資源を活かし、地域住民と来訪者の交流を進め、かつ活動団体の連携を通じた観光の質の向上に努めます。



リーダー

奥平忠志

(NPO法人どうなん「学び」サポートセンター)



サブリーダー

石塚大

(函館菜の花プロジェクト)

<本ルート of 地域資源>

このルート内には様々な歴史・文化等の資源があり、まだまだ埋もれている資源も数多く存在します。住民一人ひとりがそれらの資源について良く知り、誇りを持つことが大切です。地域住民が意識していない地域資源でも、他地域の人にとっては見たことも聞いたこともないような貴重な資源があります。この埋もれた資源を再生させる活動を私たちは追求します。

1) 平和な時代を築いてきた縄文時代の遺跡群

このルートの海岸線沿いには、無数の縄文時代前期から晩期に至るまでの遺跡群があります。例えば、恵山式土器（縄文時代前期）、大船遺跡（縄文時代中期～晩期）、森町鷲ノ木ストーンサークル（縄文時代中期～晩期）などがあります。



函館市・大船遺跡を見学する修学旅行生



函館市・恵山式土器
(恵山郷土博物館提供)



森町・森町鷲ノ木ストーンサークル
(北の縄文CLUB提供)

2) 中世から近世の和人の開拓の歴史

中世には、和人がニシンを求めて北上してきたという話も伝わっています（銭亀沢遺跡）。また、戦いに敗れた武士が上陸し、館を築きました（志海苔館、箱館）。近世には、多くの漁民が本州（北東北）からこのルート沿いに入植を開始し、また、松前藩の成立によって箱館に奉行所が置かれました。そして戊辰戦争が始まります。しかし、敗れた幕府軍の榎本武揚総帥、土方歳三新撰組副長らの反政府軍が独立国（蝦夷国）を作ろうと、森町鷲ノ木より上陸。しかし明治政府軍に攻撃され、戊辰戦争は箱館で幕を閉じました（五稜郭）。



函館市・特別史跡 五稜郭跡



函館市・志海苔館跡

3) 明治～大正にかけてのロマン調の開明の歴史

幕末のペリーの来航によって開港を余儀なくされたことから、ヨーロッパ文化が早くからこの地に導入されました。その痕跡は函館山麓や臨海地区に洋式建造物（函館区公会堂、金森倉庫群）、和洋折衷建造物（元町周辺部）に名残をとどめています。当時の函館の人々の洋風生活にあこがれた様子がうかがえます。



函館市・旧函館区公会堂



函館市・函館市文学館



函館市・旧ロシア領事館



金森倉庫群
(函館国際観光コンベンション協会提供)

4) 現在も受け継ぐ豊富な海の幸、山の幸

この地域は、寒流・暖流の流れている海を持つために、寒流系の魚（ホッケ・タラ）、暖流系の魚（イカ・まぐろ）などの魚類の他に、質の良い昆布が古くから収穫されています。また、ハウス栽培が盛んで、北海道のどこよりも早くイチゴが出荷されます（大野平野）。山側には日本で初めて植樹されたりんごの果樹園が広がります（七飯町）。



七飯町のりんご畑

明治初期に日本で初めて西洋りんごが栽培された地、七飯町。そのため、西洋農業発祥の地と言われています。現在、全国的に有名となった青森産のりんごは、青森県りんご栽培の先駆者が七飯官園でりんご栽培を学んだことに始まります。



函館市・戸井のまぐろ
(函館市企画部提供)

目標-2 住民一人ひとりが地域資源の大切さを知り、そしてそれを活かす活動を追求する

観光分科会では、本ルート上にある歴史・風土を背景にした地域資源を活かし、地域住民と来訪者の交流を進め、かつ活動団体の連携を通じた観光の質の向上に努めます。

基本方針

- 1) 地域固有の資源を活かした観光メニューの創出
- 2) 活動団体の連携強化と観光の質の向上
- 3) 歴史を学び活かす

1) 地域固有の資源を活かした観光メニューの創出

地域資源の発掘や分科会での議論などを踏まえて、ルートの各区分ごとに特徴を整理し、「縄文ルート」「昆布ルート」などとして整理しました。地域固有の資源を活かした観光メニューの創出に向けて、まず自分たちが住んでいる地域の資源などを掘り起こし、知ることから始めました。活動団体の1つ、どうなん「学び」サポートセンターでは、地元観光業者とタイアップした「学び」ツアーを開催しています。また、函館菜の花プロジェクトと連携し、西部地区飲み歩きイベント「バル街」の協賛イベントとして、街なか探訪「学び」ツアーを開催しました。

取り組み① バル街V協賛イベント「街なか探訪・学びツアー」開催

函館西部地区飲み歩きイベント「バル街」の協賛イベントとして、函館菜の花プロジェクト代表の石塚大氏らのガイドを受けながら、西部地区の街歩きを行いました。

取り組み② 「旧恵山町のブナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史を学ぶ」ツアー開催

平成17年度に引き続き、道南周遊観光の実践として企画されたバスツアーの第一弾です。



取り組み①
バル街V協賛イベント「街なか探訪・学びツアー」

4月16日約30人が参加し、小雨の中ガイドを受けながら街歩きを楽しみました。



取り組み②
「旧恵山町のブナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史を学ぶ」ツアー

恵山の成り立ちにまつわる歴史の解説は身振り手振りを交え、ダイナミックで圧倒されました。

取り組み③ 「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」 ツアー

鹿部漁港にて、鹿部漁業組合と連携したホタテの耳吊り体験ツアーが、どうなん学びサポートセンターによって開催されました。

2) 活動団体の連携強化と観光の質の向上

地域活動団体がさらに連携し、工夫することにより、地域固有の資源を活かした新たな観光のメニューを企画・運営します。

取り組み① 縄文文化を再現し、体験する歴史探訪ツアー

土器づくりなどは毎年行っているのですが、今後新機軸を打ち出せるかどうか。知恵の見せ所です。

取り組み② 西部地区の歴史的街並み探索ツアー

歴史を次世代に継承するための取り組みの一貫として、まだまだ試行錯誤の段階です。

取り組み③ 温泉宿泊施設を拠点に各種体験を交えた「癒し」のツアー

より深い癒しを提供するために、健康増進分野の専門家とも連携してプログラムづくりをしていきたいと考えています。

こうしたメニューの中に、自然を肌で感じる、歴史を学ぶ、自分を表現する、地場の産品を味わう、といった多様な要素を盛り込むことで、従来型の観光ではなく、来訪者の人生の中で、そのひとときの体験がより深い意味を持って記憶されるように工夫・演出します。

こうした観光の質の向上のためには、地域自らの発案でツアーを構築できる企画力・運営力、ボランティアガイドの育成、そのための制度面の充実・教材づくり等、着手しなければならないことが沢山あります。そのため、今後、商工会議所や観光協会との連携をいっそう強化し、個別のよい取り組み（スマイルキャンペーンなど）を模範に、改めてシーニックとして、ルート全体で協働し、展開できるような方向性をとります。

取り組み④ ルート全体で取り組む「スマイルキャンペーン」

ルート全体でおもてなしのこころを醸成したいと考えています。



取り組み③
「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」 ツアー

6月25日約30人が参加し、ホタテに関する講義を受けた後、実際に耳吊り体験をしました。



取り組み④
H17 スマイルキャンペーン

函館駅で常に笑顔で挨拶する函館商工会議所青年部。

シーニックを通じて、それぞれの活動団体の個別の事業に声かけあって参加する機会は増えてきましたが、今後は、活動団体の連携を深めていく必要があります。このため当分科会では、分科会の開催場所を大沼や鹿部など、それぞれの地域に足を運び、現地声を聞きながら、連携の可能性を模索しています。

取り組み⑤ 場所を変えた観光分科会の開催

函館市、森町、七飯町、鹿部町、旧南茅部町（現函館市）、八雲町とエリア内を巡見し計6回の観光分科会を開催しました。

3) 歴史を学び活かす

縄文・擦文・アイヌ、そして和人の中世・近世から現代までの歴史を持つこの地域の歴史的特性を学び、それを活かす活動をします。

取り組み① 「函館の歴史を学ぶ」講座

北海道教育大学函館校の根本直樹先生に「ゲートシティ・函館」と題して講演を頂きました。松前藩の支配下にあった蝦夷地の時代から第4次全国総合計画までの、函館の都市のイメージを「ゲートシティ」というキーワードからその変遷を説明して頂きました。

取り組み② 「函館の港を船上から学ぶ」講座

函館の港を船上から学ぶ講座として、実際に函館港を一周して港の成り立ちを学びました。



取り組み⑤
大沼で開催された観光分科会

七飯町におけるロードサイドからの眺望ポイントの発掘などのテーマで議論を交わす観光分科会。



取り組み⑩
「函館の港を船上から学ぶ」講座

港湾事務所の所長さんに船上で講義を頂きました。

<自然・アウトドア分科会>

目標一 3 自然の尊さ、人のぬくもりを伝える

■ 担当：自然・アウトドア分科会

噴火によって今の形を成した駒ヶ岳、サケの遡上が見られる遊楽部（ゆーらっぷ）川などの自然の尊さを、その地域に住む人々の“ぬくもり”が伝わるように、ガイドを育成して伝えていきます。



リーダー

仲尾正三

（南北海道オートリゾートネットワーク研究会）



サブリーダー

鎌鹿隆美

（NGO函館自然観察会）

<本ルート of 自然・アウトドア資源>

噴火によって今の形を成した駒ヶ岳、サケの遡上が見られる遊楽部（ゆーらっぷ）川などの自然の尊さを、その地域に住む人々の“ぬくもり”が伝わるように、ガイドを育成して伝えていきます。

1) 自然の姿を今も受け継ぐ歴史ある大沼・駒ヶ岳・横津岳

大沼は日本最古の保養地であり、新日本三景にも選ばれています。

駒ヶ岳はもともと富士山のような円錐形をしていましたが、噴火により山頂部を大きく崩したため現在の形になりました。

この辺一帯では、四季の彩りが豊かで、冬にはオオハクチョウやコブハクチョウにも出逢えます。



氷上わかさぎ釣り



白鳥の餌付け



カヌー（サンセットツアー）



へら鮒釣り

2) 躍動感あふれた自然に出会える森～八雲

遊楽部川では大型のサケの遡上が見られ、そのサケを狙ってオジロワシやオオワシが飛来しています。サケとワシが織りなす食物連鎖は自然の営みそのものです。



遊楽部川でのサケの遡上



オオワシの飛来風景



八雲町・ハーバスターファーム

3) 歴史・風土が生きる戸井～南茅部

南茅部は大謀網発祥の地であり、大謀網とは定置網の一種で回遊してくる魚を定位置に仕掛けた網で漁獲する最も大型な定置網漁法です。また、大船遺跡は縄文時代中期の遺跡で、平成8年に発掘調査が成され、平成13年8月には、国の史跡に指定されています。



大謀網風景



恵山のつつじ



大船遺跡

目標-3 自然の尊さ、人のぬくもりを伝える

噴火によって今の形を成した駒ヶ岳、サケの遡上が見られる遊楽部川などの自然の尊さを、その地域に住む人々の“ぬくもり”が伝わるように、ガイドを育成して伝えていきます。

基本方針

- 1) 自然を守りながらうまく活用していく
- 2) ガイドの発掘・育成
- 3) 地域と来訪者の心をつなぐ

1) 自然を守りながらうまく活用していく

自然景観の良い場所はたくさんありますが、人が訪れて見て欲しい地域と足を踏み入れて欲しくない（荒らされたくない）地域とがあります。しかし、足を踏み入れて欲しくない地域でも、その地域のルールを守りさえすれば見られるようになります。

取り組み① キャンプ&ラリーの開催

キャンプとラリーが融合したイベントで、キャンプの部ではやさしいキャンプ教室などの、はこだてオートキャンプ場を舞台としたイベントが行われました。また、ラリーの部では3つのコースに分かれ、ビューポイントを写真で収めたり、クイズ・体験などが行われました。

取り組み② 横津岳ガイドツアーの開催

紅葉の名所のひとつ横津連山で登山、山岳写真の手ほどきが行われてきました。横津岳は高山植物も多いことで知られています。



取り組み①
キャンプ&ラリー



取り組み①
キャンプ&ラリー
(岩田真知氏提供)



取り組み②
横津岳ガイドツアー

取り組み③ 八雲の遊楽部川に代表される自然環境教育プログラムの提供

八雲町にある遊楽部川は湧水が多く、サケの遡上が見られる所です（冬でも見られる）。体中ぼろぼろになりながらも力強く川を上っていく、そういう生命の大切さを次世代の子どもたちに教えていけるようなプログラムを提供していきます。



取り組み③
自然環境プログラム



取り組み③
自然環境プログラム

2) ガイドの発掘・育成

このルートには絶滅危惧種が存在する地域があり、何も知らない来訪客が来て荒らされる恐れがあります。しかし、その地域を良く知るガイドをルート運営代表者会議一体となって発掘し、研修を通して育成しなければなりません。そしてそのガイドをうまく活用することにより、ガイドが来訪者に立ち入ってはいけない場所や楽しみ方を来訪客に伝えることで、自然に触れる事ができるようになります。

取り組み① 大沼公園ボランティアガイド研修会

新聞やインターネットにより、ボランティアガイド（一般対象）を募集します。そして実際に来訪者に対してガイドを実践します。飲食店舗などの大沼公園に関すること、伝説などの歴史に関すること、またレジャーに関することなどをガイドします。

取り組み② ガイド発掘・育成のための連携（ネットワーク）作り

ガイドを発掘・育成するための連携作りとして、エリア内のガイドを統括するセンタ（事務局機能の役割を担う）を設置し、情報共有を図っていきます。

3) 地域と来訪者の心をつなぐ

来訪者は景観の良い場所やおいしい食べ物を求めてその地域を訪れます。しかしそれだけでなく、地域の人とふれあい、その人柄に惹かれ、リピーターになっていくのです。

取り組み① 人と人とのふれあい方について勉強する

ガイドとは人間を相手にする仕事なので、コミュニケーションの図り方について学びます。



取り組み①
人と人とのふれあい

ワカサギ漁体験したことが縁で移住してきた若者。

目標—4 ITや地域メディア等を活用した 効果的な情報を共有し、発信する

■ 担当：情報分科会

シーニックなポイント上にある、地元の人達のモチベーションをどうやって高めていくか。各活動団体の情報共有のあり方と、内部への情報発信を高めていくためにはどういう道具を揃えていけばよいのかについて検討していきます。



リーダー

丸藤 競

(活カユニット)



サブリーダー

岩塚 晃一

(函館商工会議所
青年部)

<メディアの活用状況>

1) 函館には地域密着型のメディアも各種揃っている

函館には地元新聞社「函館新聞」、コミュニティFM局「FMいるか」、ケーブルテレビ局「NCV」など、地域密着型のメディアが揃っており、それぞれに多種多様な企画を打ち出しています。フリーペーパーや、各種広報誌、有料の地域情報誌、インターネットの地域情報サイトも様々です。



ボラット



FMいるか発行
いるか通信

2) 函館市が合併したことを契機に広いエリアに関心を持っている

また函館市の合併をきっかけとして、これまで関心が旧市内に閉ざされていた市民の目が、旧3町1村を含め、広いエリアに開かれることとなり、市内に多々ある各種広報誌、フリーペーパー等においても、広いエリアを対象とした話題づくりを打ち出すようになってきました。

3) インターネットの活用は試行錯誤の状況である

ホームページは新聞やTVなどのマスメディアを通じて情報発信する場合と比べ、宣伝・広報がどのくらいの効果を期待できるのか詳しく知る術がありません。しかし例えば企業の場合なら、今や「ホームページを持っていない」ようでは信用されないという風潮もあり、ホームページを持つことが望ましいです。よりきめ細かにタイムリーな情報提供を図るため、インターネットの活用の仕方は今後進化していくものと予想されます。公立はこだて未来大学の学生の研究テーマともなっており、最新の技術動向を伺いながら、適切な導入を図ってまいります。



広報 市政はこだて



函館市 文化・スポーツ
振興財団発行 ステップ
アップ

- ・上記に挙げた以外にも、様々なフリーペーパーがある。
- ・また有料のタウン誌として、「JAM」や「AIR」などがある。

目標-4 ITや地域メディア等を活用した効果的な情報を共有し、発信する

この地域でシーニックを推進するメンバー同士の横のつながりを強化するために、情報の共有を図るための工夫が必要です。構成団体それぞれのメンバー1人1人にまで浸透させていきます。

一般の人達にこの地域のシーニックなポイント、シーニックの取り組みについて、もっと良く知ってもらうための工夫が必要です。媒体・手法は沢山あるが、実現可能な方法を模索していきます。

シーニックなポイント上にある、地元の人達のモチベーションをどうやって高めていくか。各活動団体の情報共有のあり方と、内部への情報発信を高めていくためにはどういう道具を揃えていけばよいのかについて検討していきます。

基本方針

- 1) 内部的な関心の共有、意識醸成
- 2) 地域メディアとのタイアップ
- 3) 多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発

1) 内部的な関心の共有、意識醸成

シーニックに対する関心・理解を活動団体の末端まで浸透させることが必要であり、会合に参加していない人でも、シーニックの取り組みが伝わるようにしていかなければなりません。函館には地元新聞社やコミュニティFM、ケーブルテレビ、各種地域情報誌など、地域密着型のメディアが多数揃っています。

こうしたメディアに対して、事業をおこすたびに記事掲載などを依頼していくのもよいですが、もっと積極的に「向こうからシーニックに関心を持って」もらえるような状況をつくり、例えばラジオであればシーニックの番組枠を設けてもらったり、地域情報誌であれば連載枠を設けてもらったりすることで、シーニックに取り組んでいる様子を活動団体の構成員や、広く地域の人々に知ってもらうことができれば、なお望ましいです。

取り組み① 函館・大沼・噴火湾ルート（候補ルート）活動団体一覧作成

活動団体同士の情報を浸透させるため、情報分科会が率先して各団体の基礎情報や活動内容などをヒアリングし、活動団体一覧として取りまとめました。



函館・大沼・噴火湾ルート
ルート運営代表者会議
MEMBER LIST

監修:情報分科会リーダー 丸藤 誠
(06/08/01 現在)

写真提供:060712 石原先生兼事務の分科会

取り組み①
活動団体一覧作成

2) 地域メディアとのタイアップ

函館のコミュニティFM局「FMいるか」とタイアップして、ローソン協力による広報誌への特集記事掲載（いるか通信）や、道の日に合わせて特別番組の放送などに着手しました。

取り組み② FMいるかの情報誌「いるか通信」に特集記事掲載

FMいるかと連携、ローソン協力により実現した地域メディアとのタイアップ。ルート運営代表者会議が企画制作し、5つのロケハン課題を用意。課題ポイントに到着したら、写真などでロケーションをハンティング。また、函館・大沼・噴火湾ルートのネットワークネームも募集。

取り組み③ FMいるかの特別番組（8月10日「道の日」）による情報発信

FMいるかと連携、ローソン協力、また函館・大沼・噴火湾ルートの参加団体でもある函館湯の川温泉旅館協同組合・函館商工会議所・七飯町商工会・函館国際観光コンベンション協会・八雲観光協会とその他の企業に協賛を募り、8/10の道の日に、7時間のシーニック特別番組を実施しました。FMいるかの“いるか号”（中継車）がルート内を回り、八雲町・鹿部町・森町・七飯町・函館市恵山地区に中継地点を設置。そこで、各町の参加団体が自分たちの町やシーニックバイウェイに関する抱負などを語りました。



取り組み② いるか通信への特集記事掲載

ローソンの協賛により実現した企画を「いるか通信」（3万部発行）で広報・発信



取り組み③ FMいるかの特別番組による情報発信

噴火湾パノラマパークにて、八雲観光協会の副会長小西敏雄氏が、八雲町の魅力などを語りました。

3) 多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発

「函館・大沼・噴火湾ルート」のエッセンスを簡単なロゴ・短いフレーズで表現し、参加する活動団体が自分たちの活動の中で、そのフレーズを常に織り込む（私達はシーニックバイウェイに取り組んでいます。シーニックとは・・・）。これにより、参加団体の参加意識を高めるとともに、地域に対して「シーニックという一体的な取り組み」を強くアピールすることができます。

担い手の育成には時間がかかるということを知覚で、じっくりやっていかなければなりません。それぞれの世代に馴染む手法を取り入れます。

- ・例えば、子供達（小学校低学年）には、カルタのようなものを作成して地域の魅力とふれあう機会をつくっていく方法があります。
- ・大学生とは、一緒にホームページをつくり、運営していくような体制で継続的にやっていきたいです。学生側の体制としては、研究室単位での参画、あるいはクラブ活動としての参画などが考えられます。

地域資源のPR手法としては、トレーディングカードを製作して各所でプレミアとして提供する方法が考えられます。

【案1】シーニックかるたの作成

子供達（小学校低学年）には、カルタのようなものを作成して地域の魅力とふれあう機会をつくっていく方法があります



【案2】地域資源を説明するカードの作成

トレーディングカードの要領で、地域資源の1つ1つについて、写真と説明で1枚のカードをレイアウトし、これを1式揃えて、拠点施設に置きます（何かのプレミアとして渡す）。

旅行者が自分の経路に沿ってカードを集めていくと、自分だけのカードセットが手に入るようになります。

シーニックバイウェイ北海道 縄文ロマンエリア



函館市 黒鷲岬展望台

DATA

尾札部漁港近くにある黒鷲岬。展望台を上がると、尾札部漁港から噴火湾を一望できる素晴らしい景色を楽しめる絶景ポイント。南茅部地区は大謀網漁業発祥の地。展望台に記念碑がある。

00001

Scenic Byway Hokkaido

H18ルートスケジュール

平成18年4月から本格的にルート運営活動計画作成に着手しました。作成にあたり4つの分科会に分かれ議論を重ねてきました。また、ルート運営活動計画作成と平行して、クリーン・グリーン&フラワーイベントやルートマップ作成などの連携活動も行ってきました。10月以降も各活動団体の活動や連携活動を実施し、来年度以降の活動に向けても議論を行っていきます。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ルート運営 代表者会議			ルート運営 代表者会議 6/28			ルート運営 代表者会議 9/4					ルート運営 代表者会議 2月末~3月初	
活動			ルート運営活動計画(案) 作成中		ルート運営活動計画 完成	ルート運営活動計画 提出	活動実践・評価				活動 来年度 に向けて	
ルート運営行政連絡 準備会			ルート運営 行政連絡準備会 6/8			ルート運営 行政連絡準備会 9/7					ルート運営 行政連絡準備会 2月末~3月初	
幹事会				幹事会 7/20		幹事会 8/29						
分科会	景観	景観分科会 4/8		景観分科会 7/6	景観分科会 8/4							
	観光	観光分科会 4/1、4/22	観光分科会 5/27	観光分科会 6/24	観光分科会 7/16	観光分科会 8/27						
	自然・ア ウトドア	自然・アウトドア 分科会 4/28		自然・アウトドア 分科会 6/5、6/26	自然・アウトドア 分科会 7/21	自然・アウトドア 分科会 8/30						
	情報	情報分科会 4/15			情報分科会 7/24							
関係機関との連携				FMいるかと連 携、ローソン協 力によるルート マップ作成	FMいるかと連 携、ローソン協 力による道の日 の特別番組							
勉強会				7/12 石田東 生先生を招待し て勉強会開催		9/25 小林英 嗣先生を招待し て勉強会開催						

活動内容シート

活動時期	4月			5月			6月			7月			8月			9月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
活動内容	菜の花畑間引き祭・函館菜の花プロジェクト→中止	16日・バル街V協賛イベント「街なか探訪・学び」・どうなん「学び」サポートセンター→約30名参加	29日・大沼湖水安全祈願祭・大沼観光協会	5月～10月・はこだて花かいどう・NPO法人スプリングボードユニティ21	14日・さらんべ公園桜祭り・八雲町観光協会	20日・「旧恵山町のフナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史学」・どうなん「学び」サポートセンター	4日・クリンデ・『大沼こぶし街道』青樹活動・大沼観光協会	4日・クリンデ・『大沼こぶし街道』青樹活動・大沼観光協会	22日・「函館の港」を学ぶ・どうなん「学び」サポートセンター	2日・植物園記念祭・NPO法人函館エコロジークラブ	15日・道道函館空港線での植栽活動・NPO法人スプリングボードユニティ21	29,30日「写真で振り返る函館港」パネル展等・どうなん「学び」サポートセンター	6日・やくも牧場まつり・八雲町観光協会	19日・「厚沢部町レクの森散策と昆虫の観察」・どうなん「学び」サポートセンター	26日～27日・大沼陶芸まつり・大沼観光協会	9月1日～10月15日・スマイルキャンペーン・函館商工会御所青年部	16日・アンギン編み機作成・北の縄文CLUB	21日・「函館とその周辺の海洋の環境」を学ぶ・どうなん「学び」サポートセンター	
	4月～11月の植栽・NPO法人スプリングボードユニティ21			7日・函館山観察会・NGO函館自然観察会	14日・北海道大沼へら鮎釣り大会・大沼観光協会		4日・笹流ダム公園観察会・NGO函館自然観察会	17日・大船遺跡周辺清掃・北の縄文CLUB		15日～16日・納涼夜店・七飯町商工会	22日～23日・納涼夜店・七飯町商工会		6日・赤松観察会・NPO法人函館エコロジークラブ		24日・「函館の港」を船上から学ぶ・どうなん「学び」サポートセンター		20日・ポラット紙発行・活カユニット		
				7日・大沼湖畔駅伝競走大会・大沼観光協会	15日・ひまわり畑石拾い・大沼観光協会		4日・落部公園つつじ祭り・八雲町商工会	17日・花いっぱい事業・七飯町商工会	25日・「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」・どうなん「学び」サポートセンター	16日・黒松内添別渓谷&フナ林観察会・NGO函館自然観察会	29日～30日・大沼湖水まつり・大沼観光協会	29日・「亀田川にいきものをさがそう」・どうなん「学び」サポートセンター	19日・しかべ海と温泉のまつり協賛花火大会・鹿部温泉観光協会					24日・函館山観察会・NGO函館自然観察会	
							4日・函館菜の花まつり・函館菜の花プロジェクト	20日・ポラット紙発行・活カユニット		15日・「函館の歴史」を学ぶエクスカーション（学び散策）・どうなん「学び」サポートセンター	29日・コモツづくり・北の縄文CLUB		19日・しかべ海と温泉のまつり協賛花火大会・鹿部温泉観光協会						26日～10月2日・第1回「光の街の手工芸家たちの作品展」・函館手工芸の会
							10日・清掃活動（国道5号線函館・八雲町ルート運営代表者会議	21日・八雲神社例大祭・歩行者天国・八雲町観光協会	25日～7月2日・ホテル鑑賞会・NPO法人函館エコロジークラブ										
活動時期	10月			11月			12月			1月			2月			3月			
活動内容	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
活動内容	1日・巨べら大会・大沼観光協会	8日・函館山観察会・NGO函館自然観察会	22日・シーニックバスツアー・函館商工会議所	3日・「函館の将来を語る」フォーラム・どうなん「学び」サポートセンター	14日～15日・北海道大沼グレートラン・ウォーク・大沼観光協会	「版画教室—自分だけの年賀状を作ってみよう」・どうなん「学び」サポートセンター	キャンドルナイト（十字街にて）・函館菜の花プロジェクト	カルチャーナイト・函館商工会議所青年部	12月～3月・イルミネーション・七飯町商工会		「タコを作ってあげてみよう」・どうなん「学び」サポートセンター	21日・函館大沼国際クローズドリースキーフェスティバル・大沼観光協会	3日～4日・大沼函館雪と氷の祭典・大沼観光協会				18日・赤松こも外し・函館エコロジークラブ	20日・ポラット紙発行・活カユニット	
	1日・第2回NPO法人祭り・どうなん「学び」サポートセンター&NPO法人スプリングボードユニティ21など実行委員会、他団体参加	9日・駒ヶ岳安全祈願祭・大沼観光協会	22日・やくも大漁秋味まつり・八雲町観光協会					16日・「函館クリスマスファンタジーでちょっと学ぶ」・どうなん「学び」サポートセンター	20日・ポラット紙発行・活カユニット		「冬の野外での体験」・どうなん「学び」サポートセンター								
		13日～15日・大沼紅葉まつり・大沼観光協会		9日・駒ヶ岳安全祈願祭・大沼観光協会		30日～12月3日・2006青函ツインシティ押し絵画展—V（in青森市民美術館）・ふしぎな花倶楽部			20日～23日・チャリティクリスマスアート展（in札幌ギャラリー大通り美術館）・ふしぎな花倶楽部										
	7日・土器づくり・アンギン編み・勾玉づくり・北の縄文CLUB	15日・赤松こも巻き・函館エコロジークラブ																	

シーニックバイウェイ北海道 函館・大沼・噴火湾ルート代表者会議規約

(名称)

第1条 本会は、「函館・大沼・噴火湾ルート代表者会議」と称する。

(目的)

第2条 本会は「シーニックバイウェイ北海道制度」の理念にかなう事業を実践し、地域の振興・発展に寄与することを目的とする。

(活動)

第3条 本会は前条の目的を達成する為、次の活動を行う。

- (1) ルート運営に関する意思決定
- (2) ルート運営活動計画の策定と実施
- (3) 行政連絡会議との連携
- (4) ルート運営に必要な事項の検討と決定
- (5) その他本会の目的にかなう事業

(組織)

第4条 本会は、各活動団体の代表者若しくは代理人、さらには、協力・協賛団体・企業の代表者若しくは代理人をもって構成する。

(役員)

第5条 本会に以下の役員を設置する。

- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 幹事 若干名
- 2 役員は総会において選任する。

(事務局)

第6条 本会に事務局を設置する。

- 2 事務局長は会長の指名により選任する。

(役員任期)

第7条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議)

第8条 会議は必要に応じて代表者の招集により開催する。

- 2 会議の議事進行は、会長または会長指名者が務める。

(会費)

第9条 原則として、会費は無料とする。

但し、必要が生じた時は都度、経費を徴収するものとする。

(入退会)

第10条 本会の目的に沿った新入会について、役員会で入会の可否を決める。

- 2 本会の活動に著しく反した会は役員会で退会の可否を決める。

(補則)

第11条 この規約に定めるもののほか本会の運営に関し必要な事項は、会長が役員会に諮って定める。

中長期スケジュール

	基本方針	取り組み	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
			H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
景観	1)美しい景観とは何かについて考える	・景観診断の開催	景観診断への参加											
		・ルートの景観テーマ・コンセプトの構築			ルート運営活動計画の作成・改善を通じた、景観テーマ・コンセプトの構築									
	2)ビューポイントを発掘し、活用する	・ビューポイントの発掘 ・映像資源の収集・整理・活用	分科会の開催 シーニックフォト倶楽部の立ち上げ		フォトコンテストなどを通じた映像資源の収集		デジタルアーカイブの構築		デジタルアーカイブの運用体制の確立					
3)ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	・勉強会の開催	分科会を通じた景観に関する勉強会		景観の専門家を交えた景観に関する勉強会		学習成果の理論化マニュアル化		シーニック文庫ないしシーニック新書の出版・刊行						
	・地域協働による景観向上の実践	地域団体の美化清掃活動と相互の連携促進		行政との連携促進		ルート内における景観向上のガイドライン作成		景観意識の地域への浸透						
観光	1)地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	・ルートの地域資源を巡る1日周遊ツアーの開催	旅行代理店とタイアップした「学び」ツアーの開催 地域協働プログラムと連携したツアーの開催			ツアーを自力で企画・運営 ボランティアガイドの育成		起業化の促進						
		・癒しなどをテーマにした滞在型プログラムの構築		地域協働プログラム(オンパクなど)の試行		専門家と連携した癒しなどのプログラム開発		理論化・マニュアル化 人材育成		他地域への技術提供				
	2)活動団体の連携強化	・活動団体相互の連携強化による観光の質の向上 ・他圏域の活動団体との交流・連携	活動団体それぞれの活動内容の把握・相互乗り入れ スマイルキャンペーンなどの対象エリア拡大		他圏域の方との勉強会の開催	おもてなしのマニュアル作成		シーニックをテーマに観光のスペシャリストを地域で育てる。業界全体の意識改善・体制改善に着手						
3)歴史を学び、活かす	・歴史を学ぶ講座の開催	「学び」講座の開催		ボランティアガイドのマニュアルづくり										
	・歴史を活かしたシナリオづくり			プロモーションビデオの作成		エンターテインメントにも配慮したシナリオづくり								
自然・アウトドア	1)自然を守りながらもうまく活用していく	・誰でも参加できるアウトドア体験の提供	キャンプ&ラリーの開催	既存メニューのブラッシュアップ		本格的なアウトドア体験の魅力を紹介する	本格的なアウトドア体験への誘い							
		・本格的なアウトドア体験の企画・運営												
	2)ガイドの発掘・育成	・自然とふれあう基本的な心構えの啓蒙・担い手の発掘 ・ガイドの育成	分科会を通じた意識啓蒙ネットワークづくり		ガイドライン作成 担い手の発掘			本格的なアウトドア体験を通じたガイドの育成		育成カリキュラムの確立				
3)地域と来訪者の心をつなぐ	・人と人のふれあいについての学習			お互いの経験を語り合う(暗黙知の顕在化を図る)		暗黙知を形式知(言葉にする)にする		「知」の共有に向けて、さらに理解を深めていく						
	・人と自然とのふれあいについての学習													
情報	1)内部的な関心の共有・意識醸成	・情報発信・情報共有システムの検討・開発	情報システムの検討・開発	大学とタイアップした情報システムの継続的改善		情報システム運用体制の起業化								
		・地域マネジメントシステムの確立		活動計画のブラッシュアップを通じた意識の共有・向上		地域の構成員全員が共有できるテーマ・コンセプトの確立		シーニックをテーマに地域をマネジメントできるプロフェッショナルの育成、活動団体の再編成						
	2)地域メディアとのタイアップ	・地域メディアの参画 ・メディアとタイアップしたシーニックプロモーション		コミュニティFMの参画	シーニックをテーマにした地域情報誌の発行		ルート内のシーニック関連情報を発信できる地域メディアの体制づくり							
3)多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	・ワークショップ型の教材開発			シーニックかるたワークショップなど		ワークショップ手法の理論化 ファンリテータ育成		他地域への講師派遣 函館における「まちづくり学会(仮称)」の開催						
	・観光客等に販売できる商品の開発			事例調査 マーケティング	シーニックトレカなどプレミアム商品の開発・販売 学生の参画		ベンチャー起業化促進 北東北をも視野においた展開		青函圏域において存在感を発揮					